



# 平成 30 年度全国スポーツ少年団 リーダー連絡会報告書



公益財団法人

日本スポーツ協会

## 目 次

1. リーダー連絡会開催要項	1
2. リーダー連絡会日程表	3
3. 参加者概要	4
4. スタッフ名簿	5
5. 情報提供・講義資料	6
6. 全体発表会資料	9
7. リーダーアクションに関する情報交換会まとめ	27
8. 講師講評	34
9. 参加者アンケート結果（リーダー代表者、育成担当指導者）	38
10. ジュニアスポーツフォーラム開催要項	44
11. ジュニアスポーツフォーラム日程表	46
12. ジュニアスポーツフォーラムD分科会資料	47



## 平成 30 年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 開催要項

### 1. 趣旨

全国の都道府県スポーツ少年団リーダーの相互研修および情報交換を通じ、リーダーの資質向上と各都道府県リーダー会および全国的ネットワークの充実・強化を目指し、各都道府県スポーツ少年団リーダー代表による全国会議を開催する。

### 2. 主催

公益財団法人日本スポーツ協会 日本スポーツ少年団

### 3. 後援

スポーツ庁

### 4. 期日

平成 30 年 6 月 16 日(土)～6 月 17 日(日) 1泊2日

### 5. 会場

<1 日目>国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 TEL : 03-3467-7201

<2 日目>ホテルグランドパレス

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-1-1 TEL : 03-3246-1111

※ 会場への荷物の送付および電話連絡は一切禁止する。

### 6. 参加条件・人数

#### ○リーダー代表者(1名)

以下(1)または(2)の参加条件を満たす者。

(1) 平成 30 年度スポーツ少年団登録を行い、義務教育を修了したシニア・リーダー資格保有者で、都道府県リーダー会会長である者。

※ 都道府県リーダー会会長が参加できない場合は、それに代わる者でも参加可能。

※ シニア・リーダー資格を保有していない場合は、ジュニア・リーダー資格保有者でも参加可能。

(2) リーダー会未設置県においては、平成 30 年度スポーツ少年団登録を行い、義務教育を修了したシニア・リーダー資格保有者で、リーダーの中核として活動し、将来リーダー会の中心として活躍が期待される者。

※ シニア・リーダー資格を保有していない場合は、ジュニア・リーダー資格保有者でも参加可能。

#### ○育成担当指導者(1名)

平成 30 年度スポーツ少年団指導者または役職員登録をしている者で、都道府県リーダー会において指導的立場にある者、またはジュニア・リーダースクール講師・運営担当者(平成 30 年 4 月 1 日現在)。

### 7. 内容

#### <1 日目>

- ・情報提供・講義
- ・全体発表会：ブロック研究大会ポスター発表
- ・リーダーアクションに関する情報交換会：ワールドカフェ方式
- ・ブロック別連絡会

#### <2 日目>(※第 1 回ジュニアスポーツフォーラムのプログラムに参加)

- ・特別講演 「今後の地域スポーツ体制の在り方」
- ・分科会 (パネルディスカッション)
  - A：地域スポーツクラブとしての活動を考える
  - B：子供の運動習慣の定着に向けて
  - C：これからのスポーツ指導者に求められること
  - D：人々をつなぐスポーツ少年団リーダー活動を考える
  - E：スポーツ団体における処分決定等に係る適切な手続きについて

## 8. 参加申込

都道府県スポーツ少年団は推薦者および提出書類を取りまとめ、下記により申し込むこと。

- (1) 申込先：〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館内  
公益財団法人 日本スポーツ協会 日本スポーツ少年団
- (2) 申込期限：平成 30 年 5 月 18 日(金)
- (3) 提出書類：申込書

- ※ 申し込みいただいた時点で参加者として決定します。参加者へは 6 月上旬に開催にあたっての事務連絡および事前資料を送付します。
- ※ 全体会発表担当道県のデータ提出は 5 月 25 日(金)まで。
- ※ 2 日目に第 1 回ジュニアスポーツフォーラムに参加するため、希望分科会を記入してください(別添要項参照)。なお、希望分科会の指定はありません。

## 9. 経費

- (1) 参加料：無料
- (2) 交通費：本会が定める旅費規程に基づき補助する。  
また、支給方法は所属都道府県スポーツ少年団の指定口座への振り込みとする。なお、2 日目の会場となるホテルグランドパレスには、2 日目(6/17)の朝に各自公共交通機関で移動する。
- (3) 宿泊費等：期間中の食事代を含む宿泊費および必要な教材は、日本スポーツ少年団が負担または用意する。

## 10. その他

- (1) 参加者は筆記用具およびリーダー会や討論テーマに関する資料を持参すること。
- (2) 都道府県内で全体討論会のテーマについて活動状況、課題、考えられる策等を議論し、現状把握および意見の集約を行った上で参加すること。
- (3) 都道府県の代表としてふさわしい服装で参加すること。
- (4) 参加申込にあたって収集した個人情報(参加可否の通知・関連資料の送付・参加者名簿作成を目的に使用します。また、本連絡会中に撮影した写真等については、公益財団法人日本スポーツ協会のホームページや東京 2020 大会組織委員会への各種報告書において利用することがあります。なお、この個人情報は、参加者の同意なしに、第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。

## 11. 義務研修

この研修会は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修となります。ただし、水泳、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、剣道、空手道、バウンドテニス、エアロビック(上級コーチのみ)チアリーディング(コーチのみ)、プロゴルフ(教師・上級教師)、プロテニス、プロスキー(旧職業スキー)、スクーバダイビング、スポーツドクター、スポーツデンティスト、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、クラブマネジャーの資格者については、別に定められた条件を満たさなければ資格を更新できません。テニスの指導者は 2 ポイントの実績になります。(平成 30 年 4 月 1 日現在)

「公益財団法人日本体育協会」は平成 30(2018)年 4 月 1 日から  
「公益財団法人日本スポーツ協会」に名称を変更しました。

## 平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 日程表

6月16日(土)	
12:00	受付
12:30	開会式・オリエンテーション
13:00	情報提供・講義
14:10	休憩
14:20	<b>全体発表会</b> :ブロック研究大会ポスター発表
15:40	休憩
15:50	<b>リーダーアクションに関する情報交換会</b> :ワールドカフェ方式  リーダー代表者／育成担当指導者
17:30	入室(シーツ・カギ配付)・夕食
19:00	ブロック別連絡会
20:00	閉会式
20:30	入浴・就寝準備・消灯

6月17日(日)	
6:30	シーツ返却(6:30~7:00)・清掃
7:00	朝食／カギ返却(~8:00迄)
8:00	各自移動(→ホテルグランドパレス)・受付
9:00	
10:00	<b>第1回ジュニアスポーツフォーラム 開会式</b>
10:30	特別講演
11:30	休憩
12:30	<b>D分科会【リーダー】※</b> 「人々をつなぐスポーツ少年団リーダーを考える」  座長:吉田 繁敬 パネリスト:辻川 比呂斗、リーダー代表者2名
15:00	休憩
15:15	<b>ジュニアスポーツフォーラム 全体会・閉会式</b>
16:00	

※リーダ連絡会から「D分科会」を設置するが、連絡会参加者は他分科会への参加も可。

- 受付・開会式・オリエンテーション
  - 情報提供・講義
  - 全体発表会
  - リーダーアクションに関する情報交換会
  - 閉会式
  - ・センター棟501号室
  
  - ブロック別連絡会
  - ・センター棟501・510・511号室
  
  - 講師・事務局控室
  - ・センター棟小研修室5A

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 参加概要

県No.	都道府県	リーダー	育成担当指導者	オブザーバー
		氏名	氏名	氏名
1	北海道	○	○	
2	青森県	×	×	
3	岩手県	×	○	
4	宮城県	○	○	○
5	秋田県	○	○	
6	山形県	○	○	
7	福島県	○	○	
8	茨城県	○	○	
9	栃木県	○	○	
10	群馬県	○	○	
11	埼玉県	○	○	
12	千葉県	○	○	
13	東京都	○	○	
14	神奈川県	○	○	
15	山梨県	○	○	
16	長野県	○	○	
17	新潟県	○	○	
18	富山県	○	○	
19	石川県	○	○	
20	福井県	○	○	
21	静岡県	○	○	
22	愛知県	○	○	
23	三重県	○	○	○
24	岐阜県	○	○	
25	滋賀県	○	○	
26	京都府	○	○	
27	大阪府	○	○	
28	兵庫県	○	○	
29	奈良県	×	×	
30	和歌山県	○	○	
31	鳥取県	×	×	
32	島根県	○	○	
33	岡山県	○	○	
34	広島県	○	○	
35	山口県	×	○	
36	香川県	○	○	
37	徳島県	○	○	○
38	愛媛県	○	○	
39	高知県	○	○	
40	福岡県	○	○	
41	佐賀県	○	○	
42	長崎県	○	○	
43	熊本県	×	×	
44	大分県	○	○	
45	宮崎県	○	○	
46	鹿児島県	○	○	
47	沖縄県	○	○	

※○:参加 ×:不参加

<参加者数>

	リーダー	育成担当指導者	オブザーバー
男	24名	30名	2名
女	17名	14名	1名
計	43名	44名	3名

参加者数合計: 87名 (オブザーバー3名含む)

## 平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 スタッフ名簿

### ○講師

氏名	所属	役職
佐藤 充宏	徳島大学大学院	・指導育成部会部会員 ・リーダー養成ワーキンググループ班員
祝原 豊	静岡大学	・リーダー養成ワーキンググループ班員
辻川 比呂斗	順天堂大学	・リーダー養成ワーキンググループ班員 ・スポーツ少年団運動適性テスト検討ワーキンググループ班員
吉田 繁敬	アイ・プラス株式会社	・リーダー養成ワーキンググループ班長 ・幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及ワーキンググループ班員

### ○事務局

氏名	所属
奈良 光晴	公益財団法人日本スポーツ協会 地域スポーツ推進部少年団課
田中 智也	
木下 登紀子	



## 情報提供

- ・指導者制度の変更に対するリーダー制度改定の基本方針
- ・ジュニアスポーツフォーラムの参加について

## 講義

### # リーダーアクション

できることから取り組んでみよう

佐藤 充宏

指導育成部会・徳島大学

スポーツ少年団  
認定員・スポーツリーダー

2019.4.~  
スタートコーチ

共通科目 (自宅学習12h・集合講習3h)  
専門科目 (集合講習4h) ・1級より受講できる

### リーダー制度改定の課題 スタートコーチとの整合性

- ・18歳以上のシニアリーダー保有者はスタートコーチ資格への移行を可能にするのか
- ・シニアリーダースクールの講習内容を対応させるのか
- ・リーダー育成においてACPの実践力を重点化するのか
- ・リーダー育成を地域活動による青少年育成としての価値づけ拡充(団指導者の後継者から地域コーディネーターまでの幅広い活動域)



### 望ましいスポーツ少年団リーダー育成像

※「リーダー育成改革プラン策定の基本方針について」より

#### 望ましいリーダー育成のあり方

アセスメント (評価)	チャレンジ (挑戦)	サポート (支援)
リーダーとして活動することで、地域における自分の状況に気づき、自分には変化が必要であることを知り、地域の人々からの評価を伴った経験が地域で生きる成長を促す。	リーダー活動の経験の中に、地域から要求される課題や未経験の課題に直面したとき、その子はその困難を克服する必要性を感じ、地域に関わる新しいスキルや方法を学ぶ。	リーダー活動の経験の中に地域の人々のサポートがあることで、困難な課題にもチャレンジし、成長できる価値がある人間なのだというポジティブな姿勢を維持することができる。

単位団練習活動 少年団行事運営 地域スポーツ行事 地域ボランティア

その子の生活実態にあったリーダー活動の場を生み出す工夫が必要

地域社会と少年団との連携でリーダーの成長を促す **経験価値**

「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する」  
地域スポーツを支えるタレントとして地域から評価

## 今後のスポーツ少年団リーダー養成の基本方針

### 1. 基本方針

- ① どのリーダー資格からでも取得が可能  
(取得にあたって活動歴は考慮されない)
- ② 資格取得に係るスクーリングは、単位スポーツ少年団をはじめ各級スポーツ少年団の活動を妨げない(日程や期間を考慮)

### 2. リーダーに期待されるもの

- ① 単位団員の模範としての自覚
- ② 積極的な発言・活動

### 3. リーダーに求められるもの

- ① スポーツ活動の継続
- ② 単位スポーツ少年団をはじめとする各級スポーツ少年団の後継者
- ③ 社会・地域貢献を通じたスポーツ少年団の価値向上

## 第1回 ジュニアスポーツフォーラム

6月17日 ホテルグランドパレス

□特別講演 今後の地域スポーツ体制の在り方

□パネルディスカッション

A 分科会 地域スポーツクラブとしての活動を考える

B 分科会 子どもの運動習慣の定着に向けて

C 分科会 これからのスポーツ指導者に求められること

D 分科会 **人々をつなぎスポーツ少年団リーダー活動を考える**

E 分科会 スポーツ団体における処分決定等に係る適切な手続きについて

オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて スポーツ庁 (2016.7)

オリンピック・パラリンピック教育（ムーブメントの中核）とは、オリンピック・パラリンピックをはじめとしたスポーツの価値や効果の再認識を通じて自己や社会の在り方を向上させることにより、国際的な視野を持って世界の平和に向けて活躍できる人材を育成し、求められる社会の将来像を実現しようとするもの。

東京大会は、政府の基本方針において「全国的な祭典」としており、東京だけではなくオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを全国的に展開・推進するための取組が求められている。東京大会が終了した後もその効果が次世代に引き継がれるレガシーの創出に向けて、様々なアクションをとっていくことが重要であり、そのために、政府が全国的なオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを推進していくことはきわめて重要。

総合型地域スポーツクラブ、1964年東京大会のレガシーであるスポーツ少年団やスポーツ指導者、スポーツ推進委員等と連携した地域スポーツ活動の充実、民間企業・メディア・各種団体における取組の充実が求められる

東京大会に向けた全国的な機運の醸成等を進めるためには、地域住民のオリンピック・パラリンピックに関する理解を深め、地域社会全体における関心や取組の充実を図ることが重要。

さらに、体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等地域で活動する団体や組織を活用した地域住民の日常的なスポーツ活動への参画を一層促進することによる実践的な取組にも配慮する必要。

スポーツ少年団オリンピック・パラリンピック応援プログラム  
少年団リーダーアクション2018-2020



趣旨等

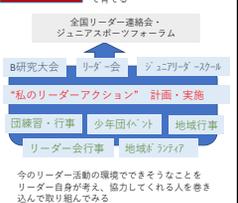
東京2020大会の応援活動を契機に、少年団リーダーのささえるスポーツの地域活動を活性化し、地域の人と人をスポーツでつなぐ喜びを広げていく。

- ・オリンピック・パラリンピック応援を通じて多様性を尊重する意識や態度、国際感覚を醸成
- ・団員の子どもをはじめ地域の多様な人々をスポーツやACPでつなぐ活動
- ・少年団リーダーの地域活動に対する住民からの評価を高める

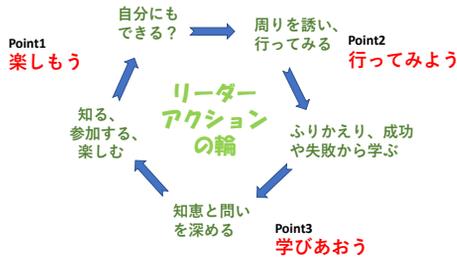
事業内容

- ①アクション立案・計画・実践によるスキル習得  
研究会やリーダー会の研修において、リーダーアクションの企画を考案し、実施計画を立て、できる事業を実践していく力を養成  
Ex) 団活動でACPの運営、オリンピック・パラリンピック選手との交流、オリンピック・パラリンピックの応援PVや学習教材の作成 etc.
- ②アクションの実施に向けた環境整備  
アクションのテーマ・ロゴマークの募集  
実践研究の場をジュニアスポーツフォーラムで育成指導者の支援方法の研究開発
- ③アクションを発信し仲間や理解者を増やす  
クチコミ × 写真・動画 × SNS 拡散

実施体制



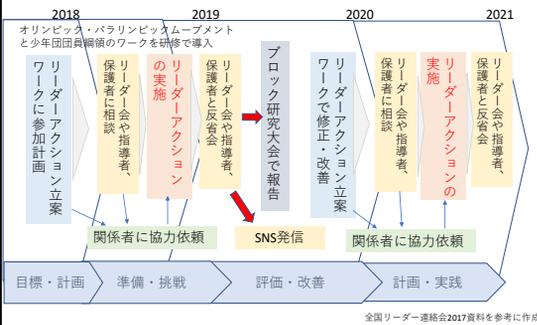
「リーダーアクション」で新たな仲間を増やしていこう



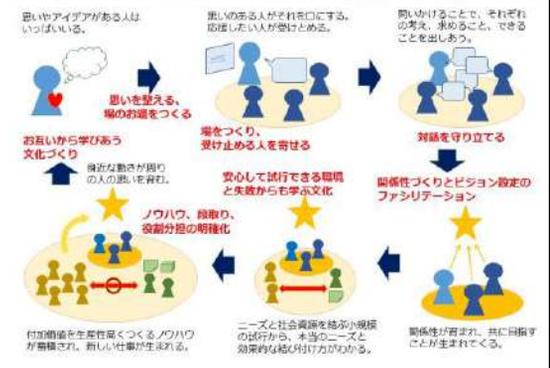
リーダーアクションは地域活動の企画・運営・評価させるツール

- いつ 中学2年生の夏と冬の休み期間で部活動や塾がないとき
- どこで 地域の単位スポーツ少年団の大会や交流行事のなかで
- 誰に 単位団の団員、保護者、指導者の方々に
- 何のために 子どもの運動遊びの大切さを理解してもらうためにオリンピック・パラリンピックのムーブメントを啓発するために
- 何を
- 4つの実践テーマ × 4つのアクション
- 「少年団行事の交流タイムのときにオリンピック・パラリンピックムーブメントの映像を流したあと、リーダー仲間と一緒にACPで参加者と交流する大切さを伝えたい」
- どのようにして
- 1) 指導者・保護者・リーダー会でアクションプランを相談する
  - 2) 行事の運営者にアクションプランの内容を説明し、実施する許可を得て、リハーサルをしたうえで実施する
  - 3) 終わったら運営内容を反省して改善点を考える

スポーツ少年団のリーダーだからできること  
リーダーアクションの展開の事例



地域・組織の人から新しい仕事を生み出すプロセス + コーディネーターの仕事



## オリンピック・パラリンピック 応援でリーダーができること

リーダー活動の価値は実践され体感されて「評判」に変わる

### 4つの実践テーマ



×

### 4つのアクション



全国リーダー連絡会2017資料より

### リーダー・アクション2018



例1) リーダー研修会においてオリンピック・パラリンピックムーブメントと少年団理念（団員綱領）を比べて、スポーツを学ぶ態度を理解する。



オリンピックの五輪マーク



スポーツ少年団のマーク

オリンピック・ムーブメントの活動を表すとともに五つの大陸の団結、さらにオリンピックに世界中から選手が集うことを表現している。  
青、黄、黒、緑、赤で白地をいれた6色で世界の国旗の全てが揃うため「世界は一つ」という願いを込めた。

若葉は伸びる青少年、五輪はスポーツと連帯を象徴。  
1964東京オリンピックのオリンピックムーブメントのひとつ青少年啓発活動を機にスポーツによる青少年育成を目指して、日本スポーツ少年団が創設される。

### リーダー・アクション2018



例2) 少年団交流イベントでパナソニックオリンピック・パラリンピック教育プログラムを活用したブラインドランニング体験の実施

導入 「パラリンピックとはどんなもの（2分56秒）」

展開① 多様な個性をもつ人々との共生を考える

展開② 共生社会の実現にはどのような問題があるかを考える

展開③ 2人組で、アイマスクをした選手としていないガイドとの間を50cmひもでつないで一緒に走り、それぞれを体感する

まとめ 共生社会の実現に向けて必要なことや今思っていることをふりかえる  
地域では、一人ひとりがスポーツとの関わり方を考え、お互い認め合い支え合う関係をつくっていく大切さを理解する

### リーダー・アクション2018



例3) 単位団活動におけるACPや運動プログラムの実施

単位団の練習時間前やウォーミングアップ時間を使って、オリンピック・パラリンピックに関係する情報を組み込んだオリンピック・パラリンピック応援バージョンACPや運動プログラムを考案し実施する

展開① ACPの遊びのルールに対してオリンピック・パラリンピック関連の情報で脚色して楽しみ、フェアプレーが大切であることを伝える

展開② オリンピックの陸上5種競技のように、複数の運動種目を組み込んだ運動プログラムを実施し、オリンピックの歴史を伝える

### リーダーアクションの情報発信

- ・ キャッチテーマを書いて提出
- ・ シンボルマークデザインを募集します
- ・ 活動したら情報を発信しよう



## # リーダーアクション2018

東京2020オリンピック・パラリンピックを  
スポーツ少年団が応援する  
スポーツで人と人をつなぐ活動

# 全体発表会

～ブロックリーダー研究大会の開催報告と  
成果・問題点の発表～

# 全体発表会 発表資料

- 北海道・東北ブロック (秋田県) P11~12
- 関東ブロック (東京都) P13~14
- 北信越ブロック (福井県) P15~16
- 東海ブロック (三重県) P17~18
- 近畿ブロック (和歌山県) P19~20
- 中国ブロック (山口県) P21~22
- 四国ブロック (高知県) P23~24
- 九州ブロック (大分県) P25~26

# 北海道・東北ブロック大会

秋田県リーダー 代表 矢部太陽

## テーマ 「リーダーの基礎を学ぶ～子どもたちを知る～」

～テーマ設定の理由～

スポーツ少年団のリーダーとして、基礎となる子どもとの関わり方を学ぶことで子どもへの理解が深まり、よりよいリーダー会活動が行えるようになると思ったから。

○ 期日  
平成29年10月7日(土)～平成29年10月9日(月)

○ 場所  
秋田県青少年交流センター ユースバル (秋田県)

### ■ 参加対象

リーダー / 育成担当指導者

### ■ 参加者内訳

	北海道	山形県	福島県	宮城県	秋田県	合計
リーダー	1名	2名	3名	2名	7名	15名
育成担当指導者	1名	1名	1名	1名	1名	5名
合計	2名	3名	4名	3名	8名	20名

### ■ 経費

参加料：50,000円 交通費：道・県庁所在地～秋田駅までの片道分

### ■ 運営スタッフの体制・運営方法

運営スタッフ：秋田県リーダー・運営指導者・事務局

運営方法：運営指導者のバックアップのもと、リーダー主体に運営

## ○ 日程

1日目：10月7日(土)	2日目：10月8日(日)	3日目：10月9日(月)
14:00～ 受付	7:00～ 朝の集い	7:00～ 朝の集い
14:30～ 開会式	7:30～ 朝食	7:30～ 朝食
15:00～ 活動報告	9:00～ 講習④	8:30～ 荷物整理
16:00～ 講習①	「円滑な話し合いの進め方」	9:00～ ディスカッションⅠ
「コミュニケーション講座」	10:00～ 実技①〈計画〉	17:00～ 講習②
17:00～ 講習②	「子どもを動かす・子どもと話す」	18:00～ 夕食
「リーダーの自分ってどんな人？」	12:00～ 昼食	19:00～ 講習③
18:00～ 夕食	13:00～ 実技②〈実践〉	
19:00～ 講習③	「子どもを動かす・子どもと話す」	
「ACPを活用した子ども体操」	16:00～ 反省・評価	
	18:00～ 夕食	
	19:00～ ディスカッション①	

### 講習①

#### 「コミュニケーション講座～話を引き出すコツ」

秋田県リーダー 梶原 陸央

話を引き出す際のコツ(共感・同調等)を聞いてから、実際にグループを作り、身近なテーマをもとに話をしてみることで、話を引き出すために必要なことを体感することができた。しかし、実際に子どもたちと話をしたり、話し合いのときには自分の興味のある話題ではないこともあるので、その際にきちんと話を引き出すことができるかが大事だと思うので、コツをうまく生かしながら、コミュニケーションをとっていただければよいと思った。



### 講習②

#### 「リーダーの自分ってどんな人？」

秋田県リーダー 金子 瑞穂

「エゴグラム」を活用し、自分がどんなタイプの人か、他のタイプの人とどのように関わっていけばよいのかというのを学ぶことができた。実際の体験などをもとに、子どもへどのような対応をするかということもわかり、楽しんで学べた。自分の性格を知ること、相手にどのように関わっていけばいいのかという参考にもなったのでよかった。



### 講習③

#### 「ACPを活用した子ども体操」 秋田県リーダー会 指導者 小畑 治隆

- 現在の子どもの運動状況などを把握しながら、実際に体を動かしながら学ぶことができた。
- 身体の中のどの部分が鍛えることができるのか、体力向上できるのかというのを楽しみながら学ぶ事ができただけでなく、どのように子どもたちに教えていけばいいのかというのを知ることができた。



### 実技①・②

#### 「子どもを動かす・子どもと話す」計画・実践

- リーダースクールを想定して、グループごとに各活動の活動内容を考えた。その際に、活動で起こりうる子どもの行動を考え、どのようにリーダーは対処するかというのと一緒に考えることができた。対処の仕方や活動内容に関して、指導者の先生や、参加者側のリーダーから評価をもらうことで、今後の活動をするときの参考になるのではと思った。反省点としては、実際に子どもを相手にしたわけではなかったため、このような実技を行うときは、実際に子どもを相手に行えばよかったと感じた。



### ディスカッションⅠ

#### 「リーダーについて考える」

- 若手リーダーから、リーダーをしていて困ったことや疑問に思ったことを聞いたり、逆にベテランリーダーが疑問などに思っていることを若手に聞き、お互いに疑問点等について教えあうことができた。
- ベテランリーダーも、自分たちが経験を積んだからこそ見えなくなっていたところを若手リーダーから気づかせてもらうこともでき、よいディスカッションをすることができていた。ただ、話が盛り上がりすぎてきたところで、ディスカッションが終わってしまったのが残念だった。



### ディスカッションⅡ

#### 「まとめと方向性」

- 今大会のプログラムなどを参考に、次回の大会ではどのようなことをプログラムに取り入れていけばよいかということ話し合えた。他にも、自分たちが大会を通して何を学んでいきたいかも聞くことで、次回の大会でやるべきことが見えてきたのではないかと感じる。
- 実際に経験をしてみたり、経験のある人から話を聞くということが、今後のリーダー会活動において大切になってきそうだった。



### 大会の成果・反省・課題

#### ■ 成果

今大会のテーマでもある「子ども」について考えを深めることができた。講義やリーダー同士の話し合いの中で、どのような子どもがいて、その子どもに対し、どんな対応をしたらよいかというのを、考え実践し評価してもらったことで、より子どもへの理解が深められていたように感じた。しかし、子どもの行動や気持ちは一人ひとり違うので、そのことも理解したうえで、今後の活動のときに各々生かしていってほしい。

#### ■ 反省

実技で実際に子どもを対象にできなかったのが残念だった。ディスカッションなども臨機応変に話す内容を変えたりすることなどできたのはよかったが、もう少し事前に話の内容や進め方を煮詰めておけば、もっと今後の課題などについて話し合うことができたのではないかと感じた。

#### ■ 課題

プログラム内容によっては実際に子どもを相手に活動をする。ディスカッションで話し合う内容や、話し合いでの最終的なゴールなどを明確にする。

#### ■ 昨年度の全国リーダー連絡会で協議・検討したことがどれくらい活かされたか

全国リーダー連絡会で情報交換をしたことで、現在北海道・東北のリーダーにかけている部分や資質向上を踏まえた内容になるように、話し合いを重ねプログラムを作成することができた。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

1

テーマ	新しいカタチ ～やりたいことやってみよう～
テーマ 設定理由	昨年度大会での提案である、「リーダー研究大会の在り方について」「各都県が来て良かったと思えるリーダー研究大会とする。その為に、事前会議(調査)の内容から主催都県を中心にどうしたら参加者全員が満足できるかを考え、工夫する」を基に、東京都リーダーと指導者で検討し決定。

◆期日  
平成29年10月28日(土)～10月29日(日)

◆場所  
BumB 東京スポーツ文化館(東京都)

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

2

◆参加対象  
関東各都県(東京都を除く):指導者1名、リーダー5名以内  
東京都(主催):指導者7名以内、リーダー10名以内

◆参加者(内訳)

	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	神奈川県	山梨県	東京都	合計
リーダー	2名	3名	5名	3名	2名	3名	5名	23名
指導者	1名	1名	1名	1名	1名	1名	3名	9名
事務担当者	1名							1名
合計	4名	4名	6名	4名	3名	4名	8名	33名

※※※結果は都合によりリーダー、指導者共に欠席

◆経費  
参加料:1人2,000円 旅費:参加者負担…等

◆運営スタッフの体制・運営方法  
開催県(東京都)のリーダー会会員・指導者が開催準備及び運営をする。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

3

◆日程

1日目:10月28日(土)	2日目:10月29日(日)
12:30 受付開始	6:30 起床・清掃・荷物整理
13:00 開会式	7:00 早朝活動
オリエンテーション	8:00 朝食
14:00 全体会	9:00 分科会②
『各都県報告』	『もしも・自分達が 第1回リーダー研究大会を開催 するしたら』
『1年トライアル報告の 新しいカタチ 分科会①』	12:00 昼食
18:00 『過去大会を知る』	13:00 全体会
19:00 夕食	14:00 閉会式
20:00 分科会①	
『過去大会を知る』	

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

4

◆プログラム概要

全体会①  
『1年トライアル報告』

・共通トライアル報告  
①引継ぎノート ②交流会の実施  
上記のことについて1年間各都県で取り組み、その結果を発表。

各都県トライアル(自由方策)  
各都県ごとに共通トライアルとは別に、  
1年間各都県で取り組むテーマをリーダー研究大会の最後に決めていく。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

5

◆プログラム概要

全体会①  
『対談会(情報交換)』

1都県と1都県の15分間のフリーな時間  
先のトライアル報告を受け、気になったことなどを聞く場  
それ以外にも自都県で困っていることを相談する場



① 埼玉-栃木 山梨-神奈川 千葉-東京  
② 山梨-栃木 埼玉-東京 群馬-神奈川  
③ 埼玉-山梨 群馬-栃木 千葉-神奈川  
④ 山梨-東京 千葉-栃木 埼玉-群馬  
⑤ 神奈川県-東京 山梨-群馬 埼玉-千葉  
⑥ 群馬-東京 山梨-千葉 神奈川-栃木  
⑦ 東京-栃木 群馬-千葉 埼玉-神奈川

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

4

◆プログラム概要

分科会①  
分科会A,B  
「テーマ:  
全国のブロックリーダー研究大会をまとめて、見える化&分析」

分科会C  
「テーマ:  
関東のブロックリーダー研究大会の1巡目と2巡目をまとめる&分析」

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

7

◆プログラム概要 分科会②  
「もしも・・・自分達が第1回リーダー研究大会を開催するとしたら」

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

8

◆プログラム概要 分科会②  
「もしも・・・自分達が第1回リーダー研究大会を開催するとしたら」

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

9

◆プログラム概要  
分科会② まとめ

【斬人】  
情報交換要素が多め。  
野外炊飯での交流はベテランチームと似ている。

【中堅】  
研修と交流要素が多め。  
関東全体でリーダー研究大会を作ろうという色が出ている。

【ベテラン】  
交流要素が多め。  
何かを持ち帰るのではなく、より交流を目的として野外炊飯をチョイス。

【推進者】  
研修と交流要素が多め。  
開催場所が固定、実行委員方式を提案。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

10

◆大会を開催した成果、反省、課題

**成果**

- ・全体会①内で座談会(情報交換の場)を設けた事により、各都県が気になっている事などを気兼ねなく聞けた
- ・大会テーマがリーダー研究大会に対して前向きな姿勢で取り組める良いテーマだった。

**反省**

- ・時間配分が甘かった
- その為、各プログラムの満足度が100%ではなかった
- ・開催都県の準備不足
- 直前の変更が必要だった為、その共有が不十分だった。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
関東ブロック(担当:東京都リーダー代表者 郷 地洋)

11

◆大会を開催した成果、反省、課題

**課題**

- ・テーマの継続型か一大会完結型
- ・事前会議の実施

◆昨年度の全国リーダー連絡会で協議・検討したことがどれくらい活かされたか

- ・大会開催1か月前だったので、方針確認と連絡事項程度だった。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

1

テーマ	北信越の輪を広げ、次世代につないでいこう
テーマ設定理由	各県のリーダー会の活性化をめざして、昨年度に引き続き同じテーマとした。 まずは北信越ブロックの中心的な役割を担うメンバーが協議・研修を行う中から、ヒントやアイデアを互いに交換し共通認識を図りながら北信越ブロック全体のレベルアップを図っていこうということでテーマ設定を行った。

◆期日  
平成29年10月28日(土)～10月29日(日)

◆場所  
福井県立 芦原青年の家（福井県）

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

2

◆参加対象  
リーダー、育成担当指導者(若手指導者)

◆参加者（内訳）

	長野県	新潟県	富山県	石川県	福井県	合計
リーダー	5名	7名	8名	4名	6名	30名
育成担当指導者	2名	2名	1名	2名	5名	12名
合計	7名	9名	9名	6名	11名	42名

◆経費  
参加料：3000円

◆運営スタッフの体制・運営方法  
開催県である福井県のリーダー会が中心となり、準備・運営等を行った。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

3

◆日程

1日目：10月28日（土）	2日目：10月29日（日）
13：30 受付	6：00 起床・清掃・荷物整理
14：00 開会式・オリエンテーション	7：00 朝食
14：30 各県活動報告	8：00 レクの実践、まとめ (中学生リーダー)
14：45 アイスブレイク	活動の振り返り (高校生以上)
17：15 夕食	11：00 全体の振り返り 日独交流の報告発表
18：00 キャンプファイヤー研修	12：00 昼食
レクの発表	13：00 記念写真・旗作り
20：00 ディスカッション&反省 (班別)	14：00 閉会式

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

4

◆アイスブレイク  
「活動の内容や様子活動から見てきた課題、対策、成果など」

課題・対策

```

    graph LR
    A[指導者のリードが多め] --> B[リーダーが率先して動けなかった]
    B --> C[当日の活動に時間がかかった]
    C --> D[リーダーが率先して動く]
  
```

成果

```

    graph LR
    E[各県ごとにアイスブレイクを持ち寄ったこと] --> F[アイスブレイクがしやすかった]
  
```



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

5

◆キャンプファイヤー  
「活動の内容や様子や活動から見てきた課題、対策、成果など」

課題・対策

```

    graph LR
    G[初めての司会で進行が慣れなかった] --> H[練習をもっとする経験を生かす]
    I[キャンドルサービスの時間配分が甘かった] --> J[担当の人との情報共有が出来ていなかった]
  
```

成果

- ・キャンプファイヤーの中でも色々な遊びが皆できて仲が深まった。
- ・キャンプファイヤーを通して一日を振り返る事ができた。



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

6

◆自由交歓・日独交流映像鑑賞  
「自由交歓の様子や日独交流映像の内容の説明など」

- ・他県の人たちと、日独の写真を見ながら楽しく会話することができた
- ・各県のお菓子を持ち寄り話が弾んだ



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

7

◆レクの実践・活動の振り返り  
「活動の内容や、話し合ったことなど」

課題・対策

高校生が主に意見を出して、中学生があまり意見を出せなかった

→

中・高生で話すときは、高校生から話を振ってあげるようにした方がよかった。

成果

- ・中高生でレクを分けて考えることができた。
- ・前日のレクより創意工夫することができた

まとめ

- ・参加者はルールの中で精一杯楽しむべきだと思います
- ・リーダーや周りの人のレクをするという雰囲気作りが大事



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

8

◆日独交流の報告発表  
「発表の様子や話し合ったことなど」

- ・事前に発表の準備をしていたので、みんなしっかり聞いてくれてよかった。
- ・映像を見ながら派遣団員が現地の人との交流の様子を伝えることができた



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

9

◆記念写真・旗作り  
「旗作りの意味や様子など」

研究大会を始めてから毎年旗作りをしている。  
大会中にあった出来事などをわきあいあいと書いています。  
寄せ書きとはまた違ってみんなの一つの思い出作りになっている。




平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

10

◆大会を開催した成果、反省、課題

反省・課題

- ・主催側の県リーダーが積極的に行動できていない場面が多々あった
- ・全体的な時間配分や指導者の話を聞いて行動すること
- ・アイスブレイクを仕切ったのが指導者や高校生で、中学生も前へ出て自分から話せると良かった
- ・リーダーとしてのメリハリをつけなければならないと感じた
- ・個人レベルでリーダーとしての意識を持たなければならない

成果

- ・全体を通してやる気があり、積極的に活動できた
- ・レクの考案では、他の班のリーダーからアドバイスをもらうことができていた
- ・途中からしっかり仲が深まり、協力してレク説明など意見が出せていた
- ・場の雰囲気悪くせずに「気づく」ことができるようにすることが少しできた

「昨年度の全国リーダー連絡会で協議・検討したことがどれくらい活かされたか」

- ・事前会議で検討した内容を連絡会で意見をもったことで、リーダーの意見を十分に取り入れられた。
- 
- アイスブレイクを実施することや、指導者の招集について事前に把握することができた。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

11

◆大会を開催した成果、反省、課題  
＜成果＞

- ・各県代表者による事前会議（7月22日～23日）を開催し、過去の大会の振り返りや今後の方針、研究内容、事前アンケート等について協議し、ブロック全体での共通認識を図った。
- ・班活動を中心にレクレーションの考案や実践、振り返り等を通して、他県のリーダー活動の様子や進め方等について学んでいった。
- ・日独交流の通訳の方にも参加してもらい、交流時の映像や報告会等を行うことができた。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
北信越ブロック（担当：福井県リーダー代表者 松田 恭輔）

12

◆大会を開催した成果、反省、課題  
＜課題＞

- ・リーダー活動の活発化
- ・各県代表者による本大会の運営体制の確立
- ・大会への参加促進

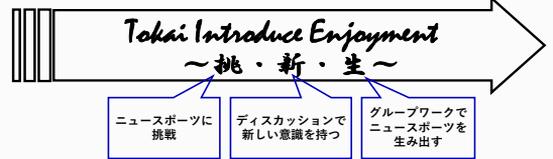


### 第22回東海ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会概要

- ・日程：平成30年3月17日（土）～3月18日（日）
- ・場所：鈴鹿青少年センター（三重県）
- ・参加対象者：東海ブロック（静岡県・岐阜県・愛知県・三重県）のリーダー会に所属するリーダー、各県指導者
- ・経費：参加料3,500円（リーダー1人当たり）
- ・運営スタッフの体制・運営方法：三重県リーダー会で企画・開催準備を行った

参加者	参加県	静岡県	岐阜県	愛知県	三重県
リーダー		8名	11名	13名	11名
指導者		2名	1名	1名	2名

### 大会テーマ



- ・テーマ設定理由  
スポーツ・レクリエーションとは違う良さのあるニュースポーツを「～挑・新・生～」の柱を通じて、東海ブロックの新しい引出しにする事を目指した

### 日程

3月17日（土）		3月18日（日）	
時間	内容	時間	内容
12:00	受付開始	6:00	起床
13:00	開会式・オリエンテーション	6:30	朝の集い
13:30	ニュースポーツ体験～挑～	7:00	朝食
15:00	ディスカッション～新～	8:00	清掃・荷物移動
17:00	夕食	9:00	グループワーク（実践）
18:00	グループワーク～生～	12:00	昼食
21:00	入浴	13:00	振り返り
22:00	就寝	13:30	閉会式
		14:00	解散

### ニュースポーツ体験～挑（挑戦）～

#### ・ニュースポーツ「ネオホッケー」に挑戦

ネオホッケー・・・アイスホッケーを体育館でできるようにしたもの  
ニュースポーツであり、接触行為などは厳しく禁止



①ネオホッケーについてリーダー自身で説明を行う



②禁止された接触行為を見本を交え説明



③実際に体験することを通じて、ニュースポーツの楽しさを実感

### ディスカッション～新（新たな意識）～

- ・テーマ 「ニュースポーツをこれまで以上に活動に取り入れていくにはどうしたら良いのか」
- ・ディスカッションを行う上での工夫



①付箋に意見を書く



②付箋を貼り付け意見をまとめる



③SPYノートの活用  
※話し合いが詰まったとき他の班の調査ができるアイテム

### ディスカッション～新（新たな意識）～

#### 出てきた現状の問題点

- ・認知度不足  
あまりやったことがない...
- ・知識不足  
ニュースポーツやったことはあるけど説明は...
- ・機会不足  
ACPやレクリエーションがほとんど
- ・道具がそろわない  
キンボールのように変わった道具が...

#### 出てきた解決策

- ・単位団に持ち帰って実践する
- ・自分たちでニュースポーツを作る
- ・リーダー間で情報共有をする
- ・道具は自分たちで作る

## グループワーク～生（生み出す）～

- ・指導案作成として「ニュースポーツ」を作ることとした

### 条件

- 時間・・・40分間
- 年齢・・・小学生～中学生を対象
- 場所・・・バスケットコート2個分ほどの体育館
- 用具・・・「段ボール」や「新聞紙」など身近に手に入る用具のみ



## グループワーク実践

### 「追いかっこ玉入れ」→玉入れ×追いかっこ

#### ルール



床に置かれた新聞紙を丸め  
相手のかごに玉を入れる

VS



かごを背負い玉を  
入れられないよう逃げる

#### 注意点



新聞紙は、安全のため  
コートの外に置いた

## 昨年の全国リーダー連絡会で協議した事

- ・昨年の全国リーダー連絡会にて、2020年までの東海ブロックのリーダーアクションを決定  
『オリンピック・パラリンピックについて知る  
～地元の選手に注目！～』

**知る** → **見る** → **体験する** → **伝える**

📌 今回

オリンピック・パラリンピックについて知る・見る・体験する・伝えるというリーダーアクション実施し今までよりも多くの人にスポーツに興味を持ってもらうことを目標とする

## 昨年の全国リーダー連絡会で協議した事

### 昨年度のリーダー連絡会で話し合ったリーダーアクション「知る」を実施

- ・東海で活躍している選手を「知る」  
→事前に各県で世界レベルで活躍している選手を調べて頂き紹介を行った
- ・ニュースポーツを・競技を「知る」  
→ニュースポーツからオリンピック競技になった「スポーツクライミング」の紹介



## 振り返り

～今回の大会のアンケート～

- ・“道具がない”“リーダーの知識不足”という問題について  
自分たちで考えることができた
- ・集まってからすぐニュースポーツをしたが、  
ニュースポーツを通してすぐに仲良くなれたように感じた
- ・実際に体験することでニュースポーツの  
面白さ・緊迫感、チームで楽しめるということを実感できた
- ・使える道具を見つけて活用できるようになってほしい  
また、最小限必要な情報を的確に伝えることが重要である

## ～この大会を通じて～

- ・ニュースポーツは・・・
  - ・勝っても負けても楽しめる
  - ・体格、性別、運動の得意・不得意関係なく楽しめる
  - ・レクリエーションとスポーツの良いとこ取り

まとめ・・・

今後もニュースポーツを実践し、意見交換することで様々な場面でリーダー活動の引き出しにすることができ、スポーツ少年団活動にも取り入れることができると感じた。

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

1

テーマ	スローガン: 「KINKI step by ステップ.」 ～今までの成果を糧に更なる発展～ 大会テーマ: 繋いだ道 ～legacy road～
テーマ 設定理由	1 高日は「近畿はひとつ」をスローガンに親睦を深め、2 高日は「ステップアップ近畿～貴賓・技術・指導者～」をもとに本質を見直し、進歩した近畿を目指してきました。3 高日は「近畿全体で若手指導者育成の足並みを揃え、成果が確実に見えるような議論を」とスタートしてきました。1 週目、2 週目で築き上げたものを土台に成長していく過程で、それぞれが前に進むために、刺激し合い進化を遂げられる研究大会にしたいという思いでこのスローガンになりました。「step by ステップ」には、着実に一步一步コツコツ、という意味や、以前の歩みあってこそ歩み、といった意味が込められています。着実に現実を見つめながら、近畿一丸となって進んでいきたいという思いです。今回リーダー研究大会3 週目の終盤を迎えるにあたり、サブタイトルである「今までの成果を糧に更なる発展へ」をより深く掘り下げ、現在に至るまでに繋いだ道を再確認しより未来に向けた道を繋げるようディスカッションしていきたいと思いいテーマを前年の全国リーダー連絡会においてブロックにて確認しテーマを設定しました。

◆期日  
平成30年6月2日(土)～6月3日(日)

◆場所  
和歌山県立紀北青少年の家(和歌山県)

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

2

◆参加対象  
リーダー(若手・中堅・ベテラン)、育成担当指導者(若手・ベテラン)

◆参加者(内訳)

	和歌山 県	大阪府	京都府	滋賀県	兵庫県	奈良県	合計
リーダー	3名	2名	3名	2名	3名	0名	13名
育成担当 指導者	3名	2名	2名	2名	2名	0名	11名
合計	6名	4名	5名	4名	5名	0名	24名

◆経費  
参加料: 無料 旅費: 参加者負担

◆運営スタッフの体制・運営方法  
開催費が運営準備、開催県リーダー会会員・育成担当指導者が開催準備

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

3

◆日程

1日目: 6月3日(土)	2日目: 6月4日(日)
14:00 受付	6:30 起床・洗面・朝のついで 清掃・荷物整理
14:30 開会行事・オリエンテーション	7:30 朝食
15:00 近畿ブロックスポーツ少年団スポーツ少年大会について	9:30 救命・スポーツ実践活動
15:30 交歓交流活動	10:30 分散会③
16:00 障がい者スポーツ「ポッチャ」実践	12:00 昼食
17:00 分散会①	13:00 分散会④
18:00 夕食	14:00 全体会
19:30 研究分散会② 「トレーナーを学ぶ」	15:30 開会行事
20:30 入浴・就寝	

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

4

◆プログラム概要

1. 近畿ブロックスポーツ少年団スポーツ少年大会について

近畿ブロックでは、近畿ブロック研究大会の翌年にブロックのスポーツ少年大会を開催するよう取り決めており、当年度は兵庫県が開催されるので、現在決まっているプログラムやテーマ等を和歌山県開催の研究大会において共有し、各府県持ち帰り周知されるよう依頼をしました。また大会開催時においてリーダーのおかれている役割等についても発表しました。



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

5

◆プログラム概要

2. 交歓交流活動  
研究大会の開催のスタートとして交歓交流にて交流を深め、分散会においてより質のよいディスカッションが行えるように、交歓交流活動を行いました。交歓交流活動のプログラムにおいてはACP等を含めて実施しました。



実施プログラム  
・ACP

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

6

◆プログラム概要

3. 障がい者スポーツ「ポッチャ」実践  
幅広いスポーツ少年団活動とリーダーから指導者へのプロセスの中で、新しい見地を発掘するために、パラリンピック種目でもあるポッチャの実践活動を行いました。開催市にて活動されている、総合型地域スポーツクラブの指導者を招いて、ポッチャ体験と審判についての指導をしてもらいました。



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

7

◆プログラム概要

4. 研究分散会 「トレーナを学ぶ」  
スポーツ少年団活動の中で役員からリーダー、そしてリーダーから指導者へのプロセスの中で、正しい知識を身に着け、正しい理解のもとに指導を行えるように、講習を受けました。①子どもの成長、②ストレッチ、③レジスタリングトレーニング、④幸せに・かっこよく・モチモチになる方法について実際のストレッチや遊びトレーニングを取り入れながら説明を受けました。終了後に、質疑応答を実施し、リーダーや指導者においても非常に有効な講習を聞くことができました。



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

8

◆プログラム概要

5. 救命・スポーツ実践活動  
スポーツ少年団活動を行うなかで、急病人やけが人が起こった際に、正しい対処法を実施できるように講習した。研究大会に参加している指導者(救急救命士の指導による、AEDの使用実践をはじめ脈拍の測り方、止血の仕方、搬送要領、やけどの対応方法、過呼吸状態の対応、ホームシックにおける対処等、スポーツ少年団に関わるリアルな体験について学んだ。



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

9

◆プログラム概要

6. 分散会  
分散会 1・3・4  
(リーダー: 若手、中堅、ベテラン)

●若手リーダー  
1) 府県での役割と単位団での活動(情報交換)  
2) 平成30年の具体的スケジュール関わり(情報交換)  
3) 中堅、ベテランになるための目標(ディスカッション)  
4) 4巡目のスローガン(ディスカッション)

●中堅リーダー  
1) 成長の証と目指すべきゴール地点(ディスカッション)  
2) 平成30年の具体的スケジュールと関わり方(情報交換・ディスカッション)  
3) 4巡目のスローガン(ディスカッション)

●ベテランリーダー  
1) リーダーとして歩んできた道  
2) リーダーとして歩んでいく道  
3) 平成30年の具体的スケジュールと関わり  
4) 4巡目のスローガン



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

10

◆プログラム概要

6. 分散会  
分散会 1・3・4  
(指導者: 若手&ベテラン)

●指導者  
1) 1巡目、2巡目、3巡目の振り返りと4巡目(奈良県)にむけて  
2) 歩んできた道  
3) 歩んでいく道  
4) 組織的役割について(大会主旨の確認、意義、方向性)  
5) 4巡目のスローガン  
6) 他ブロックとの共催  
7) 日本スポーツ少年団の方向性  
8) その他



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

11

◆大会を開催した成果、反省、課題

**成果**  
今年度の大会において特別成果を発生させたわけではないが、持ち回り開催において、スローガンを共有し大会テーマを掲げて大会を実施する事により、各参加カテゴリにおいて学習し、明日につなげるための活動を実施できたと思う。また4巡目に向けての協議も実施することができたので、引き続き実施されていく事ができればよいと思います。

**反省**  
定められたスケジュールの中で、大会運営をしたのでプログラムの合間合間が過密状態になり、プログラムごとに質疑や実践時間を多く確保することが出来なかったため参加者に不便をかけてしまいました。



平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
近畿ブロック (担当: 和歌山県リーダー代表者 楠木璃子)

12

◆大会を開催した成果、反省、課題

**課題**  
大会自体についての課題については、指導者内にてディスカッションを実施した。運営規模や運営方法について、引き続き取り決め事項として緊いしていく事と、全国リーダー連絡会の開催時期変更等において対応を検討し次年度以降の開催方法について、当研究大会の次年度以降の方向性を検討した。また参加者自体における課題については各カテゴリにおいて参加協議することにより認識することができた。

◆昨年度の全国リーダー連絡会で協議・検討したことが  
どれくらい活かされたか  
基本的にはブロッカー巡において、スローガンを定め、大会府県の個別テーマとして大会を引きついで実施している為、成果については十分に活かされていると思います



## 平成29年度 中国ブロックリーダー研究大会報告



中国ブロック代表  
山口県 叶山 雅隆



### 開催期日・場所

期日：H29. 8. 9(水)～8. 11(日)

場所：山口県スポーツ交流村

参加者：リーダー研究大会(7名) 少年大会(25名)

	山口県	広島県	岡山県	島根県	鳥取県	合計
リーダー会 代表	2名	2名	3名	0名	0名	7名
リーダー育成 担当者	1名	1名	1名	0名	0名	3名
合計	3名	3名	4名	0名	0名	10名

※参加費：無料(日本スポーツ少年団からの補助事業で)  
※旅 費：参加者負担

### 日程



内容 (共通)・・・少年大会と同一プログラムで実施

日 目	内 容
1日目	研究協議 「スポーツの楽しさとリーダーの役割」 2日目に実施するACP実践の計画
2日目	(共通)スポーツ活動(マリンスポーツ体験) (共通)スポーツ活動(ACP実践) ACP実践振り返り ディスカッション・発表準備
3日目	(共通)ディスカッションの発表 3日間の振り返り

### テーマ



#### 趣旨

昨年度のリーダー研究大会で話し合われたことを発展させる。

「スポーツの楽しさをリーダーとしてどのように伝えるのか」をテーマとして設定した。

- ・「スポーツの楽しさとは？」を理解する
- ・実践を通して「楽しさ」を伝える

リーダーによるACPの実践(企画・運営)  
○対象・・・中国ブロック少年大会参加者  
○内容・・・ACPの実践



- ふりかえり
- 参加者の反応
- ACPを実践して
- リーダーが指導するメリット

### ACPの実践



#### 実施したACP

- ・言うこと一緒、やること一緒(あまのじゃく)
- ・落とさず捕まえる
- ・手つなぎ鬼
- ・ドッジボール(丸ドッジ)
- ・シグナルジャンプ



### ACP実践



	内 容
良かった点	・各リーダーの役割がはっきりしていた。 ・活動前後で、参加者の「心の活性・安定」人数増加
悪かった点	・説明が一方通行 ・円の中心での話し方 ・「なるべく」や「できるだけ」という曖昧な表現を使用

**心の安定・活性** ACP満足度バロメーター (山口県：和田私案)

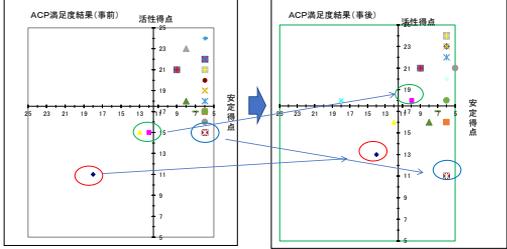


ACPによる心理的な効果を検証するために、左のようなアンケートをACPの事前事後で行った。

○縦軸に活性得点、横軸に安定得点をおいた。

不安定	活性	心理疲労群	満足群	安定
		不満足群	身体疲労群	
		不活性		

ACP満足度バロメーター (山口県：和田私案) 実施人数 25人



- ・満足群は、実施後にやや増えた。
- ・実施前は、不満足群に3人いたが、実施後は2人となった。
- ・しかし、安定得点は変わらず、活性得点のみが下がった者がいた。暑い時期に走ることが多く、ややハードになって疲れたものと思われる。

スポーツの楽しさをリーダー会の魅力とともに

ACP(レクリエーション)を企画する側の楽しさ

- 団員とふれあえる楽しさ**
  - ・仲間づくり(他県交流)
  - ・協力し、1つのものができる
  - ・コミュニケーション(団員を知る、一緒に活動)
- スキルを高めていく楽しさ**
  - ・憧れの人を真似し、成長
  - ・何回も失敗、改善することでできることが増える
- 指導する楽しさ**
  - ・やる気を引き出す
  - ・遊びたくなる環境づくり
  - ・理解してもらえる
- プログラミングの楽しさ**
  - ・新しいレクを知ることができる
  - ・展開、創造

スポーツの楽しさをリーダー会の魅力とともに

スポーツの楽しさ

企画側	活動側
<ul style="list-style-type: none"> <li>①遊びたくなる環境づくり</li> <li>②展開、創造</li> <li>④協力して1つのもの、ことができる</li> <li>⑤団員、リーダーとのコミュニケーション</li> <li>⑥仲間づくり</li> <li>⑦新しいレクを知ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③内容の評価</li> </ul>

スポーツの楽しさをリーダー会の魅力とともに

- ①:遊びを考え、やる気を引き出す  
→運動に繋げる
- ②:1つの内容に対して様々なバリエーション
- ④, ⑤:年齢差がないため、団員たちと打ち解けやすい
- ⑥, ⑦:スポーツを通じ、全国に友達ができる
- ⑦:活動する側(団員たち)も知らないから楽しめる  
→自分の単位団に帰ってみたいと思う

リーダー研究大会のつながり

リーダー研究大会の成果と課題

- ・平成28年度は、『「リーダー会員の減少」「他県との交流」』の2つのテーマで話し合い、「スポーツの楽しさをリーダーとしてどのように伝えるのか」を次のテーマとして設定できたことで、平成29年度は、前年度の課題とふりかえりを活かしたテーマ設定となった。(継続性)
- ・山口県では、ジュニアリーダースクールのグループディスカッションのテーマに「スポーツの楽しさ」をとりあげ、そのデータを資料とすることができ、協議が深まった。(提案性)
- ・「スポーツの楽しさ」を目標に、リーダーによるACP実践を通して、リーダー自身が企画するスキルを学ぶ機会となった。このスキルを自分の県に持ち帰ることができた。(実践力)
- ・参加者の入れ替わりが激しく、発展的な内容にまで深く追究することができなかったが、他県のリーダーが話し合う機会があることは、将来の人材を育てることになる。(つながり)

## 平成29年度四国ブロック リーダー研究大会報告



期 日：平成29年11月11日(土)～11月12日(日)  
場 所：高知県立青少年センター  
発表者：高知県リーダー会 会長 関 るい

### 【テーマ】

「リーダーアクション  
～障がい者スポーツを知ってもらうために～」

### 【テーマ設定理由】

- ・全国リーダー連絡会の協議テーマに沿う内容を話し合うため。
- ・オリンピック、パラリンピックを数年後に控えてリーダーとして出来ることは何かを話し合い、実践に移すため。

### ◆参加対象

各県リーダー会会員5名以内（中学生以上）  
育成担当指導者各県1名

### ◆参加者（内訳）

	愛媛県	香川県	徳島県	高知県	合計
リーダー	5名	5名	3名	9名	7名
育成担当指導者	1名	1名	1名	1名	3名
合計	6名	6名	4名	0名	10名

### ◆経費

参加料：無料 交通費：参加者負担

### ◆運営スタッフの体制・運営方法

開催県事務局及び役員が運営・開催準備  
開催県リーダー会会員及び育成担当指導者が運営

### ◆日程表

#### 1日目：11月11日（土）

- 13：00 受付  
13：30 開会式・オリエンテーション  
14：00 アイスブレイク
- 14：30 『プログラムⅠ』  
「ACPを活用したリーダー活動及び指導実践」  
講師 中川 泰子 氏  
（公財）高知県スポーツ振興財団
- 16：00 『プログラムⅡ』  
「各県の取組み報告」
- 17：30 夕食
- 18：30 『プログラムⅢ』  
「テーマディスカッション」

### ◆日程表

#### 2日目：11月12日（日）

- 7：00 起床～朝食～退所準備  
9：00 『プログラムⅣ』  
「発表物作成」  
「ディスカッションテーマ発表」  
「次年度に向けてのテーマ検討」
- 11：30 閉会式
- 12：00 夕食
- 13：00 解散



### ◆プログラム概要

1. 「ACPを活用したリーダー活動及び指導実践」  
講師：公益財団法人高知県スポーツ振興財団 中川 泰子 氏

実際の指導現場で使われているレクリエーション等をリーダーがインストラクションする形式で実施、聞く講義ではなく実践する講義を展開



## 2. 各県の取り組み報告

### 各県のリーダー会活動の報告

- ・ 全体的にACPに関する活動を徐々に広げられてきている。
- ・ 愛媛県は企業と協賛し、ACPブースを設けたスポーツイベントを実施した報告もされた。
- ・ 徳島県は市町村単位で学校行事と並行してACPを広める普及活動を行っている報告があった。
- ・ 他県の動きに対し、規模やどうやって実施したのかといった質問も出て、普段共有できない内容が確認された。



## 3. テーマディスカッション

「障がい者スポーツを知ってもらうために」と「リーダー会と学校の両立について」の2テーマを設定したが、全国リーダー連絡会の協議テーマに沿った内容を協議するため「障がい者スポーツを知ってもらうために」を重点的に協議。

4つのグループに分かれ、各グループでの話し合いを行った。  
また、協議内容が早くまとまったグループは、発表資料の作成を行った。



## 4. 「発表物作成」「発表」

各グループの発表、質疑応答を行った後、次年度への取組テーマの検討とその内容の検討・現状を抱える課題のディスカッションを行った。

- ・ 障がい者スポーツの大会等に参加する。
- ・ 体験イベントへの参加。
- ・ 参加した内容の発信 (facebook, instagram等)



### ◆【次年度へ向けてのテーマ検討】

「ACPに障がい者体験等を盛り込んで実践し、オリパラに向けて経験を基にした知識をつける」

- ・ 大会や研修等への参加を積極的に行う。
- ・ 得た情報を発信する。
- ・ リーダー活動に繋げる (ボランティア、補助スタッフなど)

また、現状の課題として、「スポーツ少年団の認知度の低さ」と「ジュニアリーダースクール以降の活動の場が少ない」が挙げられ、以下の策が出された。

- ・ 認知度向上のため広告媒体を持ち、発信を行う。(SNSやブログなど)
- ・ リーダーの活動母体となるリーダー会専用の単位団を立ち上げる

次年度テーマと現状の課題に対する策は各県が実践し、  
次回のリーダー研究大会で再度取組内容をご報告する。

### 「大会成果まとめ」

四国間でテーマを共有する事で、共通理解が深まった。  
次年度の目標が明確になった。

### 「反省」

講演内容を障がい者スポーツのテーマに合わせた内容にした方がより良かった。

リーダー同士での積極性に欠ける部分があり、アイスブレイクやフィードバックの時間をもう少し取るべきだった。

### 「前年度からの内容が活かされたところと課題」

市町村や企業にも働きかけ積極的に活動できたところもあり、全体的には活動規模が拡大してきている。

しかし、四国間での取組内容とリーダー会の体制に差があり、普段より四国間での連絡体制が必要である。

## ご清聴ありがとうございました





平成29年度九州ブロックスポーツ少年団  
リーダー研究大会(報告)



公益財団法人大分県体育協会  
大分県スポーツ少年団リーダー会



## 開催期日・場所

期日 : 平成29年10月21日(土)~22日(日)

場所 : 大分市立のはる少年自然の家

対象者: 九州各県スポーツ少年団

リーダー会代表者 5名

リーダー育成担当者 1名

### 参加者

	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	大分県	合計
リーダー	3名	5名	3名	0名	1名	0名	2名	5名	19名
指導者	1名	1名	1名	0名	1名	0名	1名	1名	6名
合計	4名	6名	4名	0名	2名	0名	3名	6名	25名

※ 鹿児島県は4名の出席予定であったが、台風接近のため不参加。



## 研究テーマ

### 「アクティブ・チャイルドプログラムの 効果的活用について」

～ 様々なシチュエーションに対応した  
レクリエーションプログラムの企画と運営 ～



## 日程及びプログラム内容

1日目: 10月21日(土)		2日目: 10月22日(日)	
12:30	○受付	7:00	○起床・清掃・荷物整理
13:00	○開会行事・オリエンテーション	8:00	○朝食
13:30	○講義 『アクティブ・チャイルドプログラムとは』 講師 畑瀬 博幸 氏 (佐賀県スポーツ少年団)	9:00	○全体会 『様々なシチュエーションに対応した、 レクリエーションプログラムの実践と評価』
14:30	○実技 『アクティブ・チャイルドプログラムの実践』 講師 田中 孝平 氏 (佐賀県スポーツ少年団リーダー会)	11:30	○昼評
16:00	○分科会①	12:00	○朝食
	『様々なシチュエーションに対応した、 レクリエーションプログラムの企画』	13:00	○開会行事
17:45	○夕食		
18:30	○分科会②		
20:00	○自由交換会		



### 1 講義(1日目13:30~14:30)

演題 『アクティブ・チャイルドプログラムとは』

講師 畑瀬 博幸 先生(佐賀県スポーツ少年団)



身体を動かす機会の減っている子どもたちの現状や身体を動かすことの重要性について学びました。



### 2 実技(1日目14:30~16:00)

演題 『アクティブ・チャイルドプログラムの実践』

講師 田中 孝平 先生(佐賀県スポーツ少年団リーダー会)



新聞紙やボール、ロープなどを活用した運動プログラムを参加者全員で実践しました。



### 3 分散会①(1日目16:00～17:30) 分散会②(1日目18:30～20:00)



分散会①では各班が様々なシチュエーションに対応したプログラム(60分)の指導案を作成しました。

分散会②では分散会①で作成した指導案を、他の班が20分版の指導案(全体会での実践用)に編集しました。



### 各班に提示したシチュエーション

**テーマ1 スポーツ少年団(サッカー女子)の練習前のレクリエーション**

対象者 小学生及び中学生(入団したばかりの団員を含む) 15名～20名

**テーマ2 スポーツ少年団(軟式野球)の練習前のレクリエーション**

対象者 小学生(入団したばかりの団員を含む) 30名～40名

**テーマ3 各県で開催するスポーツ少年団ジュニアリーダースクールでの交流会**

対象者 小学生及び中学生 50名～60名

**テーマ4 幼稚園の年少を対象とした運動遊び**

対象者 幼稚園児(年少) 10名～15名

**テーマ5 小学生児童育成クラブでのレクリエーション**

対象者 小学生 30名～40名



### 4 全体会(2日目9:00～11:30)



全体会では分散会②で作成した指導案をもとに指導実践を行いました。各班の指導実践後は、参加者全員でディスカッションを行い、活発な意見交換が行われました。また、各班の実践に対して指導者の先生方から指導・助言を行っていただきました。



### 5 評価

指導者の方々には下記の視点から評価していただきました。

《内容》

- 時間配分は適切であったか
- 目的が達成されるACPがプログラム内に効果的に活用されていたか

《団員への関わり方》

- 声の大きさは適切であったか
- 表情は適切であったか
- 説明は分かりやすく適切であったか
- リーダーとしての動きは適切であったか
- 班内で役割分担は適切に行われていたか
- 活動しやすい雰囲気づくりに努めていたか

《その他》

- 指導案は分かりやすく整理されていたか
- リーダーが楽しく活動していたか



### 参加リーダーの活動の振り返り

久しぶりに指導案を作成して、実践するのが改めて難しいと思いました。最初のテーマは少年野球の練習前のウォーミングアップで、外で行うことを想定するので、注意点を考えたり、野球に必要なスキル考えながら60分間、団員が楽しめるようにレクを選ぶのが大変でした。

分散会②の指導案作成では、対象が幼児(3～4歳)で、言葉づかいや説明の分かりやすさと安全面など、いろいろ気をつかいながら考えるのが難しかったです。また、20分間という短い時間設定なので、考えることが多くて指導案を作成する時間も、実践のための打ち合せ時間も全然足りなくて、準備不足のままでした。

私の班には、リーダー歴が4～5年の人もいれば、1年目の人もいたので、互いに意見を出しながら協力できたのでよかったです。



### 6 成果と課題

《成果》

- 各県参加リーダーがACPの趣旨や概要について再認識する場となった。
- シチュエーションの異なる2本の指導案を作成したことにより、リーダーの資質向上につながった。
- 全体会では、各班の指導実践後に参加リーダーによるディスカッション、指導者からの評価を行ったことで、各班の課題等の振り返りが行えた。

《課題》

- ACPの趣旨を踏まえたシチュエーションを提示した方が良い。(レクリエーションとの区別を図るため)
- 作成した指導案の活用と各県での実践を次年度の研究大会につなげる。

# リーダーアクションに 関する情報交換会 ～ワールドカフェ方式～

東京2020大会に向けた  
少年団リーダーアクション2018-2020

## 「スポーツで人々をつなごう」

1. 子どもの成長におけるスポーツや運動あそび（ACP）を通じて人とつながる大切さを伝える
2. 多様な人々、多様なスポーツのかかわり方を認め合い、スポーツ活動やACPを通して障害のある人や外国人と共に生きる「心のバリアフリー」を体験する
3. 震災や災害からの復興において、また、地域の人々の防災意識につながるスポーツ交流の大切さを子どもたちとともに発信する



## リーダーアクションに関する 情報交換会 -ワールドカフェ方式-

## 「ワールドカフェ」とは？



- ・「カフェ」で行うようなオープンで自由な会話をしよう  
意見の交換や新たな発想を生む
- ・ポジティブシンキング  
できないことや批判的な意見は控える→どうすれば改善できるのか考えてみよう  
「実施したいこと」や「実施できること」から意見を集める

## 情報交換の方法

1. 各班テーブルに模造紙を一枚置く
2. 班の各メンバーがポストイットにリーダーアクションに関して、「実施したこと」や「実施したいこと」などを書き込む。ポストイットの裏には「課題」を書き込む。
3. 各メンバーがポストイットに記入したことを発表し、情報を分類/整理しながら、模造紙に貼りつけていく。他のメンバーの発表に感想を述べる。
4. 時間がきたら、席を変えて他の参加者とリーダーアクションに関する意見を交換する。新しい情報・意見はポストイットに書き込んで貼りつけていく

## ホストの役割

- ・ブロック別連絡会に向けて、情報を持ち帰り、共有する
- ・席替え後、これまでの話し合いの経緯や、得られた情報・意見についての分類/整理方法などを新しいメンバーに伝える
- ・話し合いのファシリテーター（司会進行）役ではない
- ・参加者全員でポジティブに話を広げよう

## ホスト役

ブロック	都県	ホスト役
1.北海道・東北ブロック代表	秋田県	矢部太陽/小畑治隆
2.関東ブロック代表	東京都	郷地洋/細野芽生
3.北信越ブロック代表	福井県	松田恭輔/前田明希
4.東海ブロック代表	三重県	益田翼/弓矢修平
5.近畿ブロック代表	和歌山県	楠木瑠子/守田旭那
6.中国ブロック代表	山口県	叶山雅隆（指導者）
	岡山県	野田 優羽（リーダー）
7.四国ブロック代表	高知県	関るい/楠瀬豊
8.九州ブロック代表	大分県	釘宮萌愛/北島亜恵

## 「ワールドカフェ」の進め方

ラウンド1 (30分)	ラウンド2 (20分)	ラウンド3 (20分)
・テーブル上に模造紙を置き、テーマを中央に書き込み、テーマについて、各自ポストイットに書き込み、情報や意見を発表、分類して模造紙に貼り付けていく。 ホスト	・ホストはテーブルに残り、他の人は別のグループへ自由に移動 ・ホストがこれまでの話し合いの内容を説明して「実施したこと」や「実施したいこと」のアイデアをたくさん出そう	・ラウンド2と同様に、ホストはテーブルに残り、他の参加者は移動 ・ホストが過去2回の話し合いの内容を説明し、さらに意見の交換をして出ていない情報を補充しよう
	他のあるグループへ移動！	さらに議論を深めよう！

リーダーアクションに関する情報交換会 リーダー まとめ

実践テーマ	リーダーアクションとして <b>実施した</b> こと	課題
オリンピック・パラリンピック精神と少年団理念	交歓交流会の実施 (フェアプレーの精神、スポ少の理念)	
スポーツ推進/ACP活動	小学校でACPの実践	授業に取り入れてもらうことが難しい リーダー会の活動が知られていない
	オリンピック・パラリンピック競技を基にしたアイスブレイクやレクリエーションの作成	
	ブロックリーダー研究大会において、ニューススポーツがもとになった「スポーツライミング」の紹介	
文化理解	東京2020大会に向けた交歓交流会の実施	
	グッドマナー賞の実施	
地域・環境とのつながり	ブロックリーダー研究大会において、地元出身のアスリートを紹介	
	出張レクリエーションを実施 (親子レクリエーション)	
	各種大会でレクリエーションを実施	
	企業とのコラボレーション	事務局の理解が必要
	地元でボランティア活動をPR	
	ピザづくりやバームクーヘンづくり	
	地元のマラソン大会でのボランティア活動 (地域行事に参加または運営を行った)	ボランティア活動の継続、活動の増加
リーダーに関すること	他の都道府県リーダーとの交流	参加者が少ない、時間が短い
	市単位でジュニア・リーダースクールを模倣したスクーリングの実施	あまり参加者が集まらなかった (小学生団員への周知が上手くいかなかった)
	エゴグラムを実施して、自己理解を深めた	自己理解を深めて活動に活かしていくこと
	レクリエーション指導の練習	
	広報の一環としての新聞づくり (ジュニア・リーダースクールで配布。子ども用、大人用、指導者用をそれぞれ作成)	
	競技大会内での準備体操やレクリエーションの実施	
	リーダーズegg(リーダースクールに参加した子どもを対象とした交流会)の実施	

リーダーアクションに関する情報交換会 リーダー まとめ

実践テーマ	リーダーアクションとして実施したいこと	課題
オリンピック・パラリンピック精神と少年団理念	東京2020大会のホストタウン活動を広める (リーダーとして参加する)	地元にはリーダーがいない、リーダーの認知度が低い
	スポーツ少年団の理念等の紹介 (なぜスポーツ少年団ができたかなど)	
スポーツ推進/ACP活動	小中学校の授業としてレクリエーションやACPを実施	知識不足、リーダー活動の認知度が低い、協力が必要
	市や県の少年大会などでACPを実施	ACPを理解できるリーダーが少なく、団員に教えられない
	パラリンピックの競技を体験	
	単位団でACPを実践	指導者の理解が必要
	ACPの普及啓発活動を実施	日程調整が必要
	障がい者スポーツの体験 (ACPに取り入れたい)	費用、時間、人手が足りない
	障がい者スポーツの体験をしたり、障がい者スポーツをしている方との交流会を開く	費用(交通費等)、相手への配慮
	パンポンを広める	道具が茨城県にしかない
	ローカルスポーツを広める	ルールの説明、道具が無い
	オリンピック・パラリンピックのマイナースポーツの理解	
	オリンピック・パラリンピックでのパブリックビューイングを行う	
	マイナースポーツ、オリンピック・パラリンピックスポーツを知る・行う	リーダーの知識不足
	スポーツ活動時の応急措置の勉強	
	ニュースポーツの講習会	人数が少ない
文化理解	少年大会などで障がい者スポーツやパラリンピック競技を体験	
	車いすバスケットボールの体験	道具や場所の確保
	各都道府県のリーダースクールでパラリンピック競技を体験する	
	グッドマナー賞の実施(5つの「わ」) 「話」…あいさつ、「輪」…仲間や友達、「環」…施設などの掃除、「和」…平和に仲良く、「WA」…応援や笑い声	
	リーダー会内での東京2020大会に向けた意識の向上(特にパラリンピック種目) 種目について理解を深める、体験する、試合(TV、ネット等活用)を見るなどする	種目理解の方法 →定例会において1人1種目調べてきて次の会でプレゼン(5~10分)する
	各国の国技とオリンピックの関係を調べてみる	マイナースポーツが多そう
	障がい者スポーツをしている障がい者の方と一緒にスポーツを体験する	障がい者スポーツ関係者との連携、イベントの把握

リーダーアクションに関する情報交換会 リーダー まとめ

地域・環境とのつながり	SNSの活用(一つ大きなSNSを全国規模で作る)	肖像権の問題
	定期的な交流会(県内、県外含め)	
	地域の行事に参加し、リーダー会をたくさんの人に知ってもらう	
	地元のオリンピック・パラリンピック選手との交流	実施が困難
	高校生リーダーを増やす	※実際にジュニア・リーダースクールに参加した団員との一泊研修を企画している
	中学生リーダーを新しく取り入れる	※まだ議題に上がった段階なので情報収集をしている
	老人ホームでのスポーツ活動	受け入れ先の確保
	地域の活動(お祭りやマラソン大会など)への参加	
	地域全体でオリンピック・パラリンピックを応援	
	単位団団員以外へのアプローチとして一般向けのイベント開催	
リーダーに関すること	市単位でジュニア・リーダースクールを実施	人が集まらない
	ブロック研究大会への中学生の参加	日程や引率の責任
	リーダー同士の横のつながり(SNSなどの利用)	
	SNSでスポーツ少年団の活動やリーダーの活動を拡散	誰が管理するか、どのような情報を発信するか
	所属地域にとらわれないリーダー活動・リーダー会同士の連携	予算、交通費、リーダー以外の協力
	他都道府県のリーダー研究大会への参加	費用(交通費等)、相手への配慮
	各都道府県のリーダー会のCMを作成	

リーダーアクションに関する情報交換会 指導者 まとめ

実践テーマ	リーダーアクションについて <b>実施したこと</b>	課題
スポーツ推進/ACP活動	ACP単位団を立ち上げるために毎月単発イベントを開催 ニュースポーツを作成し、オリンピックにつなげるアクションを起こした	単位団での実践歴がない (まだまだ広がっていない)
	県内の武道交流大会においてニュースポーツ（ポッチャ）を体験、指導した(小中学生団員)	初めての体験種目であり、指導が不足した
文化理解	ジュニア・リーダースクールにおいてオリンピック・パラリンピックについて学んだ(オリンピアンを呼んだ)	
	全国スポーツ少年団剣道交流大会の交歓交流会のテーマを、五輪に因んで5つの「わ」をテーマとした	
	障がい者スポーツを理解しサポートした	※障がい者スポーツ協会の方に講義をお願いした
地域・環境とのつながり	クリスマス会で、オリンピック種目のジェスチャーゲームを実施	レクリエーション指導力、説明力の不足
	災害の募金活動 地域のマラソン大会等でのボランティア活動	
リーダーに関すること	リーダーから指導者への移行を推進	社会人になってもリーダー活動に参加できるようにしたが、長続きしない。1, 2年で活動が停滞する
	リーダー会の会報を作成(リーダー向け)	
	リーダー会同士の交流と研修のための合宿(一泊二日)	開催時期
実践テーマ	リーダーアクションについて <b>実施したいこと</b>	課題
オリンピック・パラリンピック精神と少年団理念	全国一斉活動の実施をPRする	
	スポーツ少年団設立の背景や、オリンピック・パラリンピックとの関りを知る	
	東京2020大会の会場見学やボランティアスタッフを担う	単位団指導者の理解不足 (団員、リーダー確保)
	東京2020大会への参画	県、本部、自治体などの理解
スポーツ推進/ACP活動	ACPの体験	
	単位団でACP実践	
	小学校低学年や幼児に向けたACPの実践	移動手段、リーダー会員の減少
	ブロック別交歓交流大会の開会式でACPの実践	参加するリーダーの確保が難しい
	車いすバスケットボールなどのパラリンピック種目の体験	実施場所の確保？競技用具の確保？
	スポーツ少年団出身のアスリートのお話を聞く	コンタクトをとるのが難しい
	ACP活動を地域の定例会や各事業で取り入れる	
	いろいろなスポーツが体験できるスポーツイベントの実施(特にオリンピック種目におけるマイナースポーツやパラリンピック種目)	場所、道具、指導者の問題 ※地域で可能な範囲で
	いろいろなスポーツを体験する機会を作る	体験する場
	オリンピック開会式でACPを行う	
文化理解	ニュースポーツを実施しやすい環境作り(用具を無料で借りられるなど)	
	障がい者スポーツに触れる機会を多く持たせたい	
	障がい者スポーツの体験(お金のかからない身近なものがよい)	
	東京2020大会のホストタウンとして、受け入れ国について学んだり、そのスポーツの体験	
	2020年県スポ少年大会で“滋賀リンピック”を取り入れたい	施設の仮おさえやリーダーアクション、オリンピック・パラリンピックムーブメントの雰囲気づくりは、担当指導者がしていく
スポーツ少年団出身のオリンピック選手の紹介		
ニュースポーツを知る(パラリンピックに目を向ける)		

リーダーアクションに関する情報交換会 指導者 まとめ

地域・環境とのつながり	オリンピックの聖火リレーに参加	
	地域の行事、イベントに関わる(スタッフ、企画など)	
	中学校部活動をスポーツ少年団に登録	
	地域への広報活動	
	地域におけるリーダー活動への理解とつながり	話し合いの場 影響力
	地域でのリーダー活動	リーダー会を知られていない 単位団での活動が少ない 活動をするためにどうしたらよいか
	東京2020大会のホストタウンになっているため、それに向けた活動	その国のことや競技の普及活動をする
地域のPR、スポーツ少年団のPR		
リーダーに関すること	他道府県との交流	
	リーダー活動のCMを作成する	
	SNSと機関紙での団員募集	
	広報誌に活動を掲載する	県との協力が必要
	リーダー会の活動費の捻出	
	全国スポーツ少年大会を県のリーダー会の年間行事とする	リーダーの人員が必要
	リーダー会で単位団に向けてACPを普及する (リーダー行事として行う)	単位団との連携
	ブロックを超えた研究大会などの実施	旅費など
	出張リーダー研修会(リーダー会の知識がない地域に)	リーダーの確保 受け入れてくれる市町村があるか
	各単位団キャプテン&副キャプテン集めてリーダー研修会を実施する	ファシリテーター役の中学生・高校生不足
	市スポーツ少年団行事への運営協力	参加リーダーの確保
	県スポーツ少年団行事への運営協力	参加リーダーの確保 協力内容の企画と運営の難しさ
	ジュニア・リーダースクールへの協力	人数不足
	認定員養成講習会でのリーダーの活用	リーダーの確保(時間、人数)
	近隣都道府県リーダーとの意見交換(リーダー同士)	リーダー会員の減少
	リーダー会の活性化の情報収集	時間的な制限
	リーダー活動を教育界に理解と評価をさせる	リーダー活動の評価が低い
	国際交流 もっとPRと参加者増員	
	リーダーの育成、研修	リーダー不足、リーダーをどのように育成するか 指導者が責任をもてない、いつやるか、どこで何をやるかの計画ができていない
	リーダーとしての活動を中心とした単位団の設立	誰が代表となるか 設立できるかどうか分からない
	リーダーから指導者への移行を推進	
	リーダーが活動する機会(行事)を増やす	県本部以外の行事に参加する機会を持っていない

# 講師講評

- 辻川 比呂斗

(順天堂大学／リーダー養成ワーキンググループ班員・スポーツ少年団運動適性テスト検討ワーキンググループ班員)

- 祝原 豊

(静岡大学／リーダー養成ワーキンググループ班員)

- 吉田繁敬

(アイ・プラス株式会社／リーダー養成ワーキンググループ班長・幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及ワーキンググループ班員)

○祝原 豊 先生

(静岡大学／リーダー養成ワーキンググループ班員)

みなさん、長時間お疲れさまでした。今日は佐藤先生の情報提供・講義に始まり、ブロック研究大会に関する全体発表会、リーダーアクションに関する情報交換会、ブロック別連絡会と、昨年まで丸一日かけて実施してきた内容を、半日で実施するプログラムとなりました。講師にとってこのような形式での実施は初めての試みでしたが、目的は達成されるように場の設定などの仕掛けについてもトライをしました。皆さんもお気付きの部分があったのではないかと思います。

私が全体発表会と情報交換会に関わって感じたことは、これまでのリーダー連絡会とは違った形で情報共有ができたのではないかとことです。特に、双方向の活発な情報交換が促されたのではないかと思います。これまでのリーダー連絡会では、少しネガティブな話も出るような場面もあったと聞いておりましたが、今回はポジティブで有用な意見や話が多く聞けたのではないかと思います。参加されたみなさんには、今日感じたことを地元の各ブロックに持ち帰って、情報を発信する立場として活躍していただきたいと考えております。

○辻川 比呂斗 先生

(順天堂大学／リーダー養成ワーキンググループ班員、スポーツ少年団運動適性テスト検討ワーキンググループ班員)

みなさん、長い時間本当にお疲れさまでした。まず、全体発表会についてですが、昨年度までの全体に向けて発表する形式から、ポスターを掲示して発表をする形式へと実施方法を大幅に変更しました。全体発表会の様子を見ていて、議論がより活発に行われていたように感じましたが、一方で発表形式や場の設定などにまだまだアレンジが必要であると思いました。全体発表会の後、指導者とリーダーがそれぞれ分かれての情報交換会を、ワールドカフェという形式で実施しました。全体発表会で議論したことが情報交換会での議論の下地になっていて、良い議論ができていたのではないかと思います。私は昨年度初めてリーダー連絡会に参加しましたが、今年は昨年度と比べて、雰囲気は全く違っていたと感じました。おそらく、各都道府県に持ち帰る情報や意見なども、例年とはまた違ったものになったのではないかと思います。明日は引き続きジュニアスポーツフォーラムが開催されます。ジュニアスポーツフォーラムの分科会では、昨年度までのリーダー連絡会と同じようなスタイルで発表を聞くことがメインになりますが、座長である吉田先生のもと、パネリストからの発表を聞いていただいた後に、みなさまの意見を聞けるような形で進めていきたいと思っています。明日のジュニアスポーツフォーラムでは、各自がそれぞれの課題を持ちながら、話を聞いていただけたらと思います。今日は本当にお疲れさまでした。

○吉田 繁敬 先生

(アイ・プラス株式会社／リーダー養成ワーキンググループ班長、幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及ワーキンググループ班員)

みなさんお疲れさまでした。先にお二人の講師が話された内容が今回のリーダー連絡会の全てかと思います。私はリーダー養成ワーキンググループの班長として、このリーダー連絡会の内容を検討してきました。リーダー連絡会とジュニアスポーツフォーラムの同時開催が決定し、リーダー連絡会の日程が例年よりも半年近く早まった中で、どのような内容で実施するのか、どのような準備を行うのかなどを限られた時間の中で決定しました。ワーキンググループの会議の中で、我々も今回皆さんが実施したワールドカフェと同じように、「これができない」とか、「これがダメ」とか「時間が減ったからできない」ではなく、どうすればやるべきことを実現できるのかということを議論してきました。例えば、私が出した案に対して班員の先生方から、こっちの方が良いのではないかと、こうしたら良くなるのではないかと、といったような様々な意見を加えていただき、今日の全体発表会のポスター形式や情報交換会のワールドカフェ形式が決まりました。

全体発表会を初めてポスター形式で実施して分かったことは、とても活発に双方向の意見交換ができていたということです。ポスターを用いることによって、情報がその場に残ることや、発表者と見学者の距離が近いことから、他の人が質問したことに重ねてどんどん質問がでていた様子が指導者、リーダーともによく見受けられ、活発な議論になっていたと思います。このことから、我々がこれまでのリーダー連絡会で当たり前と思っていた発表形式よりも、実はもっとより良い形式があったのだと感じました。何かをやってみて、これで良いと思った時点で、それより良いものはできなくなるという教訓を得ることができました。また、ご参加いただいたみなさまからもリーダー連絡会をより良くしていくためのヒントやご意見をいただきました。「ここがダメだった」で終わるのではなく、ダメだった箇所がわかったからこそ、来年度以降はさらにより良いものを皆さんと一緒に作っていかれたらと思います。

そして、明日ですが、ジュニアスポーツフォーラムが初めて開催されます。私自身、初めて座長を務めるため、内容的に十分なものが提供できるか少し不安です。しかし、佐藤先生が講義中におっしゃったように、ジュニアスポーツフォーラムの分科会の一つに「リーダー」が取り上げられたということが大きな一歩ではないかと思います。ただ、我々だけでは分科会はつくっていくことができないので、ここにいる50名の方と、明日から参加される25名のみなさま全員で分科会を作り上げていきたいと思っています。この分科会を機会に、今日みなさんに議論していただいた内容や、リーダーが発信しようとしていることをより多くの人に知っていただけたらと思います。また、各地域、各市区町村で抱えている問題は違うと思いますが、分科会での発表や議論を通して、このアイデアだったら自分たちでも使えるというものを見つけてほしいと思います。実現できそうなアイデアを1つ見つけるためには、より多くのアイデアを聞く必要があると思います。1つの情報を聞いて

て、それが使えなければ話は終わりますが、100 個の情報を聞けば、その中から使えるアイデアが 1 つあるかもしれません。何か 1 つでも使えるアイデアをみなさまに提供できるように頑張りたいと思っています。明日の分科会では、東京都の育成担当指導者の細野さん、徳島県リーダー代表の新居さんがパネリストを務め、リーダー活動の事例を発表していただきます。緊張してうまく発表できるか心配されていると思いますが、ここにいる皆さんが応援する気持ちで見守っていただければと思います。今日は一日ありがとうございました。また明日もよろしくお願いいたします。

# 参加者アンケート結果

## ○趣旨

本アンケートは、平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会の活動効果を調査するとともに、次年度以降よりよい活動を展開するために、課題・改善点を把握することを目的として、本連絡会参加者を対象に実施したものである。

## ○調査内容

下記項目について、参加した感想・今後の要望等を回答

1. 情報提供・講義について
2. 全体発表会について
3. 情報交換会について
4. ブロック別連絡会について
5. その他連絡会全体に関してご意見・ご感想

## 平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 参加者アンケート集計結果

各項目の集計に当たっては、有効回答のみを集計したため、項目によって回答数にばらつきが生じています。

<参加者>

リーダー	43名	※うちオブザーバー2名
育成担当指導者	44名	※うちオブザーバー1名

### 1. 情報提供・講義 (当てはまるもの1つに○を付けてください。)

(1)内容	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①良かった	54.9%	45	26	19
②どちらかと言えば良かった	40.2%	33	15	18
③どちらともいえない	4.9%	4	2	2
④どちらかと言えば悪かった	0.0%	0	0	0
⑤悪かった	0.0%	0	0	0
合計	100.0%	82	43	39

(2)時間配分	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①長くしてほしい	2.5%	2	1	1
②今のままで良い	90.1%	73	39	34
③短くしてほしい	7.4%	6	2	4
合計	100.0%	81	42	39

### 2. 全体発表会 (当てはまるもの1つに○を付けてください。)

(1)内容	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①良かった	47.6%	40	23	17
②どちらかと言えば良かった	39.3%	33	14	19
③どちらともいえない	10.7%	9	6	3
④どちらかと言えば悪かった	2.4%	2	0	2
⑤悪かった	0.0%	0	0	0
合計	100.0%	84	43	41

(2)時間配分	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①長くしてほしい	21.3%	17	14	3
②今のままで良い	66.3%	53	24	29
③短くしてほしい	12.5%	10	4	6
合計	100.0%	80	42	38

### 3. 情報交換会 (当てはまるもの1つに○を付けてください。)

(1)内容	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①良かった	51.2%	43	29	14
②どちらかと言えば良かった	27.4%	23	7	16
③どちらともいえない	13.1%	11	4	7
④どちらかと言えば悪かった	6.0%	5	2	3
⑤悪かった	2.4%	2	1	1
合計	100.0%	84	43	41

(2)時間配分	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①長くしてほしい	50.6%	40	30	10
②今のままで良い	46.8%	37	13	24
③短くしてほしい	2.5%	2	0	2
合計	100.0%	79	43	36

### 4. ブロック連絡会 (当てはまるもの1つに○を付けてください。)

(1)内容	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①良かった	73.2%	60	36	24
②どちらかと言えば良かった	20.7%	17	4	13
③どちらともいえない	3.7%	3	1	2
④どちらかと言えば悪かった	2.4%	2	1	1
⑤悪かった	0.0%	0	0	0
合計	100.0%	82	42	40

(2)時間配分	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①長くしてほしい	26.6%	21	10	11
②今のままで良い	70.9%	56	31	25
③短くしてほしい	2.5%	2	0	2
合計	100.0%	79	41	38

5. その他連絡会全体に関してご意見・ご感想をお聞かせください。(自由記述)

<リーダー>

<p>全体発表会に関しては、パワーポイントのスライドを並べられてもあっちこっち見なければいけないので大変になるのでプレゼンじゃないなら一枚のポスター発表にしっかり移行してほしい。</p>
<p>今回大幅に変更された全国リーダー連絡会ですが、前回同様とても有意義な時間を過ごせたと思います。企画した運営の皆様の努力には、大変な思いをしたと思います。このような良い時間を来年も過ごせれば、良い関係ができてと思います。ありがとうございました。</p>
<p>時間配分を決めて1回1回最初からやってほしい。質問タイムなども設けて、もっと充実した内容にしてほしい。</p>
<p>全体発表会はスライド発表後、ポスターで多方向にディスカッションできれば、発表都県も他ブロックについて学ぶことができると考えられる。情報交換はよりテーマを具体的にすることで時間内により密な内容が実施できると考えられる。</p>
<p>情報交換会ではもう少し明確なテーマが欲しかったです。</p>
<p>初めてなので、不安な部分はありましたが、話し合いにしっかり入れたので良かったと思います。思ったよりも意見交換が活発で、多くの課題に気付くことができました。</p>
<p>全体発表会で発表者がうまく交替できず、他の県の意見が聞けていなかった。時間を半分に分け、4ブロックごとの発表もありかなと思いました。ただ、いろいろ質問ができ深く知ることができたので、全体会の発表の方法は良かったと思いました。</p>
<p>情報交換会のテーマをリーダーが今話し合いたいことを自由に話せるようにしてほしいなと思いました。あと指導者の方に聞いたのですが、他県とのパイプを作ることが当初の目的だったとのことで、もっとそういった交流ができたらいいなと思いました。</p>
<p>全体発表会の各ブロックの発表の仕方がバラバラで、ぼくの中で良かったのは、一通りの流れを説明してもらい、それについて質問をすることでした。けれど質問する側が多くて2人の時もあったので、何人かで質問すれば、自分の気付かない点が聞けるのでいいと思いました。情報交換会では、僕が今回リーダー連絡会が初めてということもあり、他県の話より聞きたかったです。</p>
<p>もう少しリーダー間のネットワークを広げられるようなディスカッション等を増やしていただきたいと思いました。また、ポスター形式での発表はしやすく盛り上がりました。</p>
<p>各ブロックごとのリーダー研究会についてどんなことをしたのか、どんな意図をもってしたのか、発表をきくことで理解できたのでよかったです。リーダー連絡会という形なのに受け身で話を聴くことが多く交流の時間が少なかったので、リーダーで交流できる形の集まりにしてほしい。</p>
<p>ワールドカフェ方式でたくさん意見が聞けて良かったです。議論をつきつめたいのももう少し時間が欲しい気もします。</p>
<p>今年初参加だったのですが、レクとかもって体を動かす時間があったレクの意見交換とかできたら良かったなと思います。</p>
<p>全体発表会の方法は良かったと思うが、最初から説明を聞くのが難しかった。</p>
<p>world café方式は様々な情報、考えを知ることができて、経験値の浅い私には勉強になりました。</p>
<p>自分の県に持ち帰り、実践したいことがたくさんあり、とても有意義なものになりました。ありがとうございました。</p>
<p>机の移動などの後、元の状態に戻すときに元の位置がわかり辛く困ることがあったので、何か目印になるようなものが欲しいです。</p>
<p>二日間で例年通り行ってほしかった。半日では他県との情報交換がうまくできなかった。</p>
<p>参考になることが多くありました。ありがとうございました。</p>

＜育成担当指導者＞

<p>全体発表会について、意見交換や質問等がしやすく、より良い時間になったと思うが、発表県を移動したときに途中からになってしまうことばかりだったため、時間の区切りがあっても良いように感じました。</p>
<p>全体発表のやり方で、時間にメリハリをつけてローテーションをかけてほしかった(発表7分、質問3分くらい)。できれば、すべての発表を始めてから聞きたかった。</p>
<p>6月という年度の前半の時期に開催だったので、これからのリーダー会の活動の指針とすることができ、とても有意義でした。情報提供、講義の内容もまさに聞きたい知りたい内容だったため今後の活動に生かしていきたいと思っています。全体発表会のポスター発表は細かいこともいろいろと質問することができ、とても参考になりました。情報交換会のワールドカフェ方式は新鮮で短い時間でしたが、たくさんの育成指導者と話す機会ができてよかったです。ただ、ホスト役の人が主旨と方法をあまり理解していないところは、テーマとずれてしまいまとまりのない形になってしまっていたのが残念でした。ブロック別連絡会は関東は余裕をもった話し合いができたので、ここ数年では一番建設的で、和やかな話し合いができたと思います。個人的には、リーダー育成のめざす育成指導者にあると思っています。全国リーダー連絡会の年間を通じてのネットワークや情報交換ができる場があるといいなと思います。JSPOのホームページ、少年団の項目の中でリーダー関連の情報もアップしてもらい、リーダーアクションの事例が見られるといいなと思います。リーダー育成に関してはどの都道府県も手探り状態だと思います。群馬県としては、関東ブロック内での議論はし尽くしているため、他のブロックの、全国の先進的な事例を知りたいなと感じています。例えばSNSの活用の仕方等。地域との関わり、広報、ACP活用事例等。日本スポーツ少年団本部、ワーキンググループの先生方からはっきりと、リーダーの目指すべき姿や課題についての取り組み、方針を出してもらえたので、目標とするものが見え今後のリーダー活動の支援がやりやすくなりました。育成指導者の先生方にこそ学んでもらいたいと思いました(今回の内容)。リーダーアクションについて等や質問等、ワーキンググループの先生方からご意見をもらうことは可能でしょうか？ACPの講師の先生方への質疑のようにリーダー育成で質問する場があるといいなと思っています。最後に講師の方々、事務局の皆様、大変お世話になりました。短い時間でしたがとても有意義な時間と過ごすことができました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。長文失礼いたしました。</p>
<p>各ブロックの発表会(ポスター発表形式)では、多くの個別質問ができたので大変有意義であった。</p>
<p>6月に開催、1日にまとめた開催で新しい連絡会の形だったが、全体的にとっても良かった。全体発表会では、とても活発な意見交換ができたと思う。発表側も色々な声を聴くことができ勉強になった。ただ、もう少し他ブロックの発表を見に行ける配慮があるとよかった。</p>
<p>情報交換会に関して、それぞれがやる内容、方法、目的を異にして違った認識で取り組んでおり、話が噛み合わないことが多かった。全員がほぼ同じ情報を得られるはずなのに、できあがったポスターがかなり違う内容になっていました。リーダーアクションに関する共通の認識を持たせるために、事前の導入の内容をもう少し変える必要があるかもしれません。</p>
<p>全体発表の形式が良かった(少人数のため例年よりも質問や感想を述べやすい)。ワールドカフェ方式は良かったが時間が足りず、情報を提供するだけで深く話すことができなかった。</p>
<p>情報交換会は、方向性、テーマ、ジャンルが各テーブルでバラバラすぎて、別のテーブルへ行ったときにあまりの区別、内容の違いに戸惑ってしまった。説明に対する解釈が各自で違っていた。話し合いは概ね問題なかった。</p>
<p>全体発表が、ポスターセッションだったため、議論ができたことはよかった。が、発表者はやはりなかなか(指導者⇄リーダー交替しても)見に行けませんでした。</p>
<p>全体発表:いきなり始める前に、アウトラインをパワポで説明してからポスター発表するほうが良いかと。発表の時間を15分ごとにリセットする方法も一案。情報交換:テーマが大きすぎていた気がします。もう少しテーマを絞った方が良いかと思います。ブロック別:スタートの合図が欲しかった。</p>
<p>全体発表会の発表と、情報交換会のホスト役は別の都道府県にしたほうが良いと感じた。情報交換会のテーマがもう少し絞られていると、より議論がしやすいと感じた。</p>
<p>全体発表会で発表者を半分にし、発表県もまわれるように考慮できたらいいと思いました。</p>
<p>過去のデータを含め、明確な目標やビジョンのアプローチをしてもらいたい。</p>
<p>時間的な余裕が欲しい。リーダーから指導者となって現在頑張っている方がどの程度いるのか?一度データがみたいと思います。</p>
<p>情報交換についてテーマを絞り、テーマの説明をもう少し丁寧にしてもらいたかった。</p>
<p>情報交換会の進行に慣れず、時間がかかってしまった。テーマを絞り、時間をもう少し長くしてほしい。全体発表会は、全体での時間を統一していただければ、移動した際に効率よく説明が聞けたと思う。</p>
<p>全体発表会では、発表する立場だったため、他のブロックの内容を聞くことができなかったのが残念でした。ブロックで役割分担をしておくべきでした。発表する時間帯をある程度区切って行うとよいのでは?</p>
<p>全体発表会は今回の発表の仕方でも多くの質問があったことは良かった。情報交換会も今回の仕方でも良いが、もう少し時間が長いと良かったと思います。</p>
<p>ワールドカフェ方式の交換会は面白くて良かった。</p>
<p>勉強させて頂きました。お世話になりました。初めての試みで大変だったと思います。ありがとうございました。</p>
<p>情報交換会は、話し合うテーマを少し出してもらえると何もわかっていない人も参加しやすいと感じました。しかし、リーダーも指導者も何もわかってなさすぎる方もいたので、もっと各都道府県の実情を把握して参加しないといけないと思う。ネガティブな人や非現実的な意見も多々あったので、各参加者が実現可能なものを理解して、持ち帰らないといけない。各県の実情を知れて、本当に良かったです。愛媛県で頑張りたいと思います。</p>
<p>それぞれの意見が汲み取れているのか、できていないような気がしました。双方向の意見をお互いに尊重できているのか、しっかり考えてほしいと思います。</p>
<p>全体発表会では、今まではただ各ブロックの結果報告を聴いただけだったが、今年のポスター発表は、より深く話を聴くことができて良かった。</p>

## 平成 30 年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 参加者アンケート

今後の参考資料とするために、下記アンケートへのご協力をお願いいたします。  
下記の質問にご回答いただき、閉会式終了後にアンケート回収箱にご提出ください。  
また、回答いただいた内容については、本連絡会の報告書に掲載しますことを予めご了承ください。

都道府県 氏 名 : \_\_\_\_\_  
参加区分 : 育成担当指導者・リーダー代表者 (いずれかに○)

### 1. 情報提供・講義 (当てはまるもの1つに○を付けてください。)

- (1) 内容 ① 良かった ② どちらかと言えば良かった  
③ どちらともいえない ④ どちらかと言えば悪かった  
⑤ 悪かった

- (2) 時間配分 ①長くしてほしい ② 今のままで良い ③ 短くしてほしい

### 2. 全体発表会 (当てはまるもの1つに○を付けてください。)

- (1) 内容 ① 良かった ② どちらかと言えば良かった  
③ どちらともいえない ④ どちらかと言えば悪かった  
⑤ 悪かった

- (2) 時間配分 ①長くしてほしい ② 今のままで良い ③ 短くしてほしい

### 3. 情報交換会 (当てはまるもの1つに○を付けてください。)

- (1) 内容 ① 良かった ② どちらかと言えば良かった  
③ どちらともいえない ④ どちらかと言えば悪かった  
⑤ 悪かった

- (2) 時間配分 ①長くしてほしい ② 今のままで良い ③ 短くしてほしい

### 4. ブロック別連絡会 (当てはまるもの1つに○を付けてください。)

- (1) 内容 ① 良かった ② どちらかと言えば良かった  
③ どちらともいえない ④ どちらかと言えば悪かった  
⑤ 悪かった

- (2) 時間配分 ①長くしてほしい ② 今のままで良い ③ 短くしてほしい

### 5. その他連絡会全体に関してご意見・ご感想をお聞かせください。(自由記述)

ご協力ありがとうございました。  
提出：閉会式終了後

# 第 1 回ジュニアスポーツフォーラム

期日/平成 30 年 6 月 17 日(日)

会場/ホテルグランドパレス



公益財団法人 日本スポーツ協会

日本スポーツ少年団

## 第1回ジュニアスポーツフォーラム開催要項

### 1. 趣旨

ジュニアスポーツに関わる指導者及びスポーツ少年団リーダーの資質向上を図るとともに、スポーツ活動に欠かすことのできない安全・安心な環境の整備に資するために、指導者・リーダー及び法律実務家、研究者を一堂に会し、フォーラムを開催する。

### 2. 主催

公益財団法人日本スポーツ協会 日本スポーツ少年団  
公益財団法人スポーツ安全協会  
日本スポーツ法学会

### 3. 主管

日本スポーツ少年団指導者協議会運営委員会

### 4. 後援

スポーツ庁

### 5. 協力

スポーツ安全保険引受損害保険会社 計8社

### 6. 期日

平成30年6月17日(日)

### 7. 会場

ホテルグランドパレス  
東京都千代田区飯田橋1-1-1 TEL:03-3246-1111

### 8. 内容

#### (1) 特別講演

「今後の地域スポーツ体制の在り方」

演者：友添 秀則（早稲田大学スポーツ科学学術院 教授）

#### (2) 分科会（パネルディスカッション）

- A：地域スポーツクラブとしての活動を考える
- B：子供の運動習慣の定着に向けて
- C：これからのスポーツ指導者に求められること
- D：人々をつなぐスポーツ少年団リーダー活動を考える
- E：スポーツ団体における処分決定等に係る適切な手続きについて

### 9. 日程

別添日程による

### 10. 参加対象

- (1) スポーツ少年団登録指導者・役職員
  - (2) 都道府県スポーツ少年団リーダー代表者及びリーダー育成担当指導者（各1名）※
  - (3) ジュニアスポーツに従事する法律実務家及び研究者
  - (4) ジュニアスポーツに従事している日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格保有者
  - (5) その他、日本スポーツ少年団が認めた者
- ※(2)については、平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会〔6月16日(土)開催〕参加者が引き続き参加する。

## 11. 申込方法

### (1) スポーツ少年団登録指導者・役職員

都道府県スポーツ少年団は、参加するスポーツ少年団登録指導者・役職員をとりまとめ、所定の参加申込書により5月25日（金）までに日本スポーツ少年団宛申し込むこと。

なお、申し込みの際には、併せてE-mailでも所定の様式にて送付すること。

[送付先E-mailアドレス：jjsa@japan-sports.or.jp]

### (2) 都道府県スポーツ少年団リーダー代表者及びリーダー育成担当指導者（各1名）

平成30年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会への参加申込をもって、本フォーラムの参加申込とする。

### (3) 上記以外の者は、所定の参加申込書により5月25日（金）までに日本スポーツ少年団宛申し込むこと。

## 12. 定員

500名

※ 会場の都合により定員に達し次第、申込みをお断りする場合があります。

参加の可否は、上記参加対象（1）及び（2）の方には所属される都道府県スポーツ少年団から、（3）～（5）の方は本会からご連絡いたします。

## 13. 参加料及び支払い方法

### (1) スポーツ少年団登録指導者・役職員

都道府県スポーツ少年団は、参加料2,160円（税込）×人数分を取りまとめ、6月8日（金）までに下記振込先へ納入のこと。

※ 参加者は都道府県スポーツ少年団の指示に従い、参加料を納めること。

### (2) 都道府県スポーツ少年団リーダー代表者及びリーダー育成担当指導者（各1名）

本フォーラムの参加料は不要。

### (3) 上記以外の者は、申し込み後、参加内定と併せてお知らせする参加料の振込先へ、2,160円（税込）を納入のこと。

※ 参加料の振込をもって参加決定となる。

#### 【参加料振込先】

<振込先> 三菱UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 3085407 口座名：公益財団法人日本スポーツ協会 ザイ）ニホンスポーツキョウカイ
--

## 14. その他

この研修会は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修となります。ただし、水泳、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、剣道、空手道、バウンドテニス、エアロビック（上級コーチのみ）、チアリーディング（コーチのみ）、スクーバ・ダイビング、スポーツドクター、スポーツデンティスト、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、クラブマネジャー、プロゴルフ（教師・上級教師）、プロテニス、プロスキーの資格者については、別に定められた条件を満たさなければ資格を更新できません。テニスの指導者は2ポイントの実績になります。（平成30年4月1日現在）

「公益財団法人日本体育協会」は平成30（2018）年4月1日から  
「公益財団法人日本スポーツ協会」に名称を変更しました。

# 第1回ジュニアスポーツフォーラム日程表

期日：平成30年6月17日（日） 会場：ホテルグランドパレス（東京都）

9：00～10：00	受付				
10：00～10：30 (30分)	開会式 1. 主催者あいさつ 伊藤 雅俊(公益財団法人日本スポーツ協会会長) 2. 来賓あいさつ 安達 栄(スポーツ庁 健康スポーツ課課長) 3. 日程・資料説明				
10：30～11：30 (60分)	特別講演 「今後の地域スポーツ体制の在り方」  演 者：友添 秀則（早稲田大学スポーツ科学学術院 教授）				
11：30～12：30 (60分)	休憩				
12：30～15：00 (150分)	分科会				
	テーマ	座長	パネリスト		
A	地域スポーツクラブとしての活動を考える	佐藤 充宏 (徳島大学)	黒須 充 (順天堂大学)	小池 正浩 (NPO法人掛川市体育協会)	富田 寿人 (静岡理工科大学)
B	子供の運動習慣の定着に向けて	杉山 康司 (静岡大学)	武長 理栄 (笹川スポーツ財団)	松本益千嘉 (京都府スポーツ少年団)	吉田 伊津美 (東京学芸大学)
C	これからのスポーツ指導者に求められること	矢野 宏光 (高知大学)	栗原 久美子 (島根県スポーツ少年団)	佐々木 玲子 (慶應義塾大学)	土屋 裕睦 (大阪体育大学)
D	人々をつなぐスポーツ少年団リーダー活動を考える	吉田 繁敬 (アイ・プラス株式会社)	辻川 比呂斗 (順天堂大学)	細野 芽生 (東京都リーダー会)	新居 千夏 (徳島県リーダー会)
E	スポーツ団体における処分決定等に係る適切な手続きについて	菅原 哲朗 (キーストン法律事務所)	井口 加奈子 (スクワイヤ外国法 共同事業法律事務所)	堀田 裕二 (アスカ法律事務所)	宮澤 達三 (埼玉県スポーツ少年団 副本部長)
15：00～15：15 (15分)	休憩				
15：15～16：00 (45分)	全体会 分科会報告：各分科会座長  閉会式 主催者あいさつ 坂本 祐之輔(日本スポーツ少年団本部長)				

# 第 1 回ジュニアスポーツフォーラム

## D 分科会資料



公益財団法人 日本スポーツ協会

日本スポーツ少年団

スポーツ少年団リーダーアクション 2018-2020 企画趣旨  
「スポーツで人々をつなごう」

◎東京オリンピック 1964 大会と少年団の設立との関係

1964 年東京オリンピックの開催を迎えるにあたり、日本体育協会の呼びかけによって始まったオリンピック青少年運動が、日本スポーツ少年団が誕生した背景。このオリンピック青少年運動は、青少年オリンピック・ムーブメントの正しい理解と協力のもとに運動の推進をはかり、さらに青少年問題に対処するためスポーツを通して青少年の心身の健全育成に貢献することを理念に掲げ、様々な活動を展開した。その理念を達成するための恒久的組織として日本スポーツ少年団が誕生した。(日本スポーツ少年団 50 年史)

◎東京 2020 大会ビジョン 東京 2020 大会開催基本計画

スポーツには世界と未来を変える力がある

- ①全員が自己ベスト する、みる、ささえる それぞれの関わり方でベストをつくす
- ②多様性と調和 違いを認め合い、平和を維持し、共生できる社会を育む
- ③未来へ継承

◎アクションプラン 2017 (第 10 次育成 6 か年計画)

「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献しよう」

\*単一種目型の単位団による交流、ACP の実践による多様な動きの経験を促す

\*スポーツ少年団に関わる子ども、指導者、保護者、育成母集団の多様な人々のスポーツライフを充実させる

\*競技スポーツの勝利をめざす練習活動に偏らず、多様な運動・競技レベルの子どものスポーツ活動を地域文化として受け入れ、相互理解を推進する

東京2020応援プログラム  
平成29年度スポーツ少年団全国一斉活動

●趣旨

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に、  
「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する」という理念の一つに基づき、全国各地で実施する美化活動、環境ボランティア活動、平和活動、国際交流活動などの社会貢献活動を通して、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの理解を深める活動を実施する。

■■■ 東京 2020 大会に向けた少年団リーダーアクション 2018-2020

「スポーツで人々をつなごう」

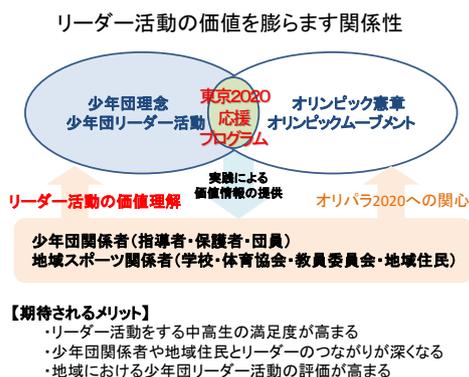
少年団のリーダー活動においてオリンピック・パラリンピック教育を取り入れる背景や意義は次の通りである。

- 1 子どもの成長におけるスポーツや運動あそび (ACP) を通じて人とつながる大切さを伝える
- 2 多様な人々、多様なスポーツのかかわり方を認め合い、スポーツ活動や ACP を通じて障害のある人や外国人と共に生きる「心のバリアフリー」を体験する
- 3 震災や災害からの復興において、また、地域の人々の防災意識につながるスポーツ交流の大切さを子どもたちとともに発信

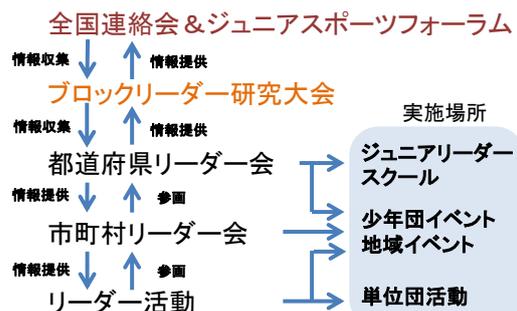
<<リーダーアクションを進める中でオリンピック・パラリンピック教育をリーダー養成に導入する基本的姿勢>>

- すべてのリーダーが、自分のできる範囲で、興味関心に応じて、オリンピック・パラリンピックの応援に何らかの形でかわり、それを通してオリンピック・パラリンピックの価値や意義を学び、少年団の理念とのつながりを理解することが大切
- 既存のリーダー活動において、オリンピック・パラリンピック精神とスポーツ少年団理念の重要性について伝え、体験や活動を通じて学ぶことを重視
- 大会後のリーダー育成においても継続的にオリンピック・パラリンピック教育を展開していく

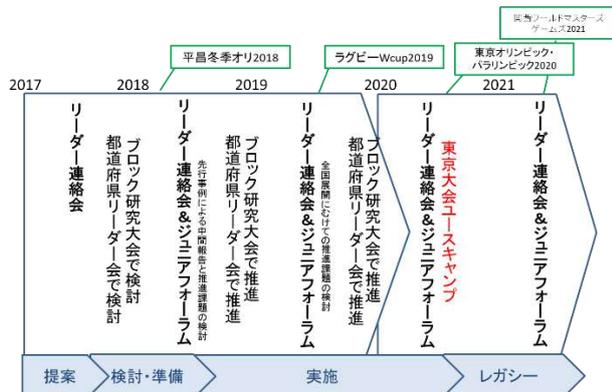
## 東京2020応援活動をリーダー活動に組み込む



## 実施体制



## 今ある環境でできることから



## オリンピック・パラリンピック 応援でリーダーができること

リーダー活動の価値は実践され体感されて「評判」に変わる



全国リーダー連絡会2017資料より

**発表しよう**

**2020年以降の社会にあるとよい少年団のリーダー活動に向けて**

**外国の子でも障害のある子でも同じ子ども、安全に、安心して、楽しめるスポーツ交流**

**よりよい社会の発展につながる**

**スポーツ交流**



パネルディスカッション 分科会 D会場

テーマ

「人々をつなぐ  
スポーツ少年団リーダー活動を考える」

日本スポーツ少年団 リーダー養成WG班員  
運動適性テスト改定プロジェクト班員  
辻川比呂斗 (つじかわひると)  
hiroto@juntendo.ac.jp



ホテルグランドパレス 2018.6.17

## ここまでの流れおさらい

- 吉田先生より リーダーアクションについて
- 東京都 細野芽生さん (指導者)  
「東京2020に向けてのリーダーアクション」
- 徳島県 新居千夏さん (リーダー)  
「徳島県におけるリーダーアクション」

これらを踏まえて、  
今一度、リーダーアクション・  
リーダー育成の意義について再考してみたいと  
思います。

## H29年度のテーマ 全国リーダー連絡会

講義: 「東京2020大会に向けたリーダーアクションを考えよう」  
分散会: リーダー「スポーツでつなぐ○○な世界 (仮称)」  
指導者「リーダーアクションによるリーダー育成マネジメント」  
連絡会: 「次回のブロックリーダー研究大会の打合せ」  
次年度のリーダー連絡会およびジュニア・スポーツフォーラム  
(仮称) に向けてのスケジュール検討」

【講義】  
東京2020大会に向けたスポーツ少年団のアクションを考える。  
全国のリーダー会が共同して、「スポーツでつなぐ○○な世界 (仮称)」をテーマに、  
それぞれの地域でのリーダーアクションを創出するという構想を題材として、全国キャン  
ペーンの展開手法を解説する。  
【分散会】  
分散会I: それぞれのテーマについて、多様な地区の参加者同士が情報交換・討論し、  
リーダーアクションに向けた具体的な活動事例や体制づくりについての提案  
をまとめる。  
分散会II: ブロック別に集まり、指導者・リーダー別の分散会Iの報告および情報交換を  
行い、各都道府県のスポーツ少年団リーダーアクション (原案) を作成する。  
【連絡会】  
次回のブロックリーダー研究大会に向けた情報交換および次年度リーダー連絡会および  
ジュニア・スポーツフォーラム (仮称) に向けた情報交換を行う。

## 4つの実践テーマ

オリンピック・  
パラリンピック  
精神と  
少年団理念

オリンピック・パラリンピックの精神とスポーツ少年団理  
念と関係を理解する  
スポーツ少年団が理念をかかげている意義を考える  
スポーツの多様な価値の理解を深める

スポーツ推進  
ACP活動

既存のスポーツやACPの実践をオリンピック・パラリン  
ピック色に実施する  
少年団や地域交流イベントで、スポーツやACPを通して  
応援プログラムを展開する

文化理解  
国際交流・共生社会

パナソニックの「共生社会」学習教材等を少年団イベント  
やリーダー会の研修でも活用する  
パラスポーツを応援したり、外国の子どもを集めたACP  
イベントで文化交流を展開する

地域・環境と  
のつながり

身近な利用施設の清掃から、地域のスポーツイベントの  
ボランティア、海外の子どもたちへのスポーツ用品支援まで、  
スポーツで人々がつながる喜びを広げる活動を展開する

## 4つのアクション

学ぶ  
(知る)

オリンピックのムーブメントを学ぶ  
スポーツ少年団の歴史を学ぶ  
地域のオリンピック・パラリンピックイベントやオリ  
ンピック・パラリンピック選手を知る

観る  
(伝える)

オリンピック・パラリンピック関連の試合を観る  
少年団で地元のオリンピック・パラリンピック選手を応援  
する  
オリンピック・パラリンピックイベント参加のようすを  
SNSに掲載して伝える

する  
体験・交流

地域の子どもを集めてACPをする  
少年団で障がい者スポーツを体験する  
少年団員と海外の選手とが交流する

支える

オリンピック・パラリンピック関係イベントのボランティ  
アとして運営を支える  
地域の障がい者スポーツイベントの運営を支える  
低学年用のACPを提供して少年団活動を支える

## オリンピック・パラリンピック応援で リーダーができること

リーダー活動の価値は実践され体感されて「評判」に変わる

## 4つの実践テーマ

オリンピック・  
パラリンピック  
精神と  
少年団理念

スポーツ推進  
ACP活動

文化理解  
国際交流・共生社会

地域・環境と  
のつながり

×

## 4つのアクション

学ぶ  
(知る)

観る  
(伝える)

する  
体験・交流

支える



分科名: 都道府県別リーダーアソシエーションの成長の計画

1) 都・道・府・県 (新潟) 2) リーダー代表 (荒尾 美穂) 3) 育成指導 ( )

年度	全国プロダクト研修・行事	都道府県研修・行事	リーダーアソシエーションの成長
2013.10	全国リーダー研修会 ジュニアリーダーフォーラム	① 1ヶ月間の研修 ② 2ヶ月間の研修 ③ 3ヶ月間の研修	① 研修の目的や目標を明確にする ② 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる ③ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる
2014.1		④ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる ⑤ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる	④ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる ⑤ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる
2014.6	全国リーダー研修会 ジュニアリーダーフォーラム		
2014.12	リーダーアソシエーション 12月までは実施しはじめる		
2015.6	全国リーダー研修会 ジュニアリーダーフォーラム		

分科名: 都道府県別リーダーアソシエーションの成長の計画

1) 都・道・府・県 (新潟) 2) リーダー代表 (荒尾 美穂) 3) 育成指導 ( )

年度	全国プロダクト研修・行事	都道府県研修・行事	リーダーアソシエーションの成長
2013.10	全国リーダー研修会 ジュニアリーダーフォーラム	① 1ヶ月間の研修 ② 2ヶ月間の研修 ③ 3ヶ月間の研修	① 研修の目的や目標を明確にする ② 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる ③ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる
2014.1		④ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる ⑤ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる	④ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる ⑤ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる
2014.6	全国リーダー研修会 ジュニアリーダーフォーラム		
2014.12	リーダーアソシエーション 12月までは実施しはじめる		
2015.6	全国リーダー研修会 ジュニアリーダーフォーラム		

分科名: 都道府県別リーダーアソシエーションの成長の計画

1) 都・道・府・県 (新潟) 2) リーダー代表 (荒尾 美穂) 3) 育成指導 ( )

年度	全国プロダクト研修・行事	都道府県研修・行事	リーダーアソシエーションの成長
2013.10	全国リーダー研修会 ジュニアリーダーフォーラム	① 1ヶ月間の研修 ② 2ヶ月間の研修 ③ 3ヶ月間の研修	① 研修の目的や目標を明確にする ② 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる ③ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる
2014.1		④ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる ⑤ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる	④ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる ⑤ 研修の目的や目標を達成するための具体的な計画を立てる
2014.6	全国リーダー研修会 ジュニアリーダーフォーラム		
2014.12	リーダーアソシエーション 12月までは実施しはじめる		
2015.6	全国リーダー研修会 ジュニアリーダーフォーラム		

## スポーツ宣言日本

- スポーツは、**運動の喜びを分かち合い、感動を共有し、人々のつながりを深める**。人と人の絆を培うこのスポーツの力は、共に地域に生きる喜びを上げ、地域生活を豊かで味わい深いものにする。  
21世紀のスポーツは、人種や思想、信条等の異なる多様な人々が集い暮らす地域において、**遠く人々がこうしたスポーツを差別なく享受し得るよう努めること**によって、**公正で福祉豊かな地域生活の創造に寄与**する。
- スポーツは、**身体活動の喜びに根ざし、個々人の身体的諸能力を自在に活用する楽しみを広げ深める**。この素朴な身体的経験は、人間に内在する共感の能力を育み、環境や他者を理解し、響き合う豊かな可能性を有している。  
21世紀のスポーツは、高度に情報化する現代社会において、このような身体的諸能力の洗練を通じて、**自然と文明の融和を導き、環境と共生の時代を生きるライフスタイルの創造に寄与**する。
- スポーツは、その基本的な価値を、**自己の尊厳を相手の尊重に委ねるフェアプレーに負う**。この相互尊敬を基調とするスポーツは、自己を他者に向けて偽りなく開き、他者を率直に受容する**真の親善と友好の基盤を培う**。  
21世紀のスポーツは、多様な価値が存在する複雑な世界にあって、積極的な平和主義の立場から、**スポーツにおけるフェアプレーの精神を広め深めること**を通じて、**平和と友好に満ちた世界を築くことに寄与**する。

平成23年7月15日 日本体育協会・日本オリンピック委員会 創立100周年記念事業実行委員会

## 日本のスポーツにおける課題

- ✓ 体罰 (暴力)
- ✓ ドーピング
- ✓ トップダウン (上意下達的意思決定)
- ✓ パワハラ、セクハラ
- ✓ バーンナウト (燃え尽き症候群)
- ✓ オーバーユース

**勝利至上主義**

⇕

**価値の見直し**

- ✓ 相手や審判、サポーター、環境に対して尊重する心。  
指導者は選手・子ども達に対してリスペクトする気持ちを。
- ✓ グッドルーザー
- ✓ マスターリー志向 (経過管理)

**フェアプレー精神**

東京2020を、  
スポーツ少年団やリーダーの  
価値を再構築していく一つの  
契機と考える。

そのためには・・・

# 東京2020大会 アクション&レガシープラン

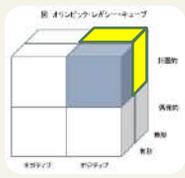


<https://tokyo2020.org/jp/games/legacy/>

# オリンピック・レガシーとは何か

**概念**  
IOCによれば、レガシーとは「**長期にわたる、特にポジティブな影響**」とされます（IOC "Olympic Legacy and Impacts"）。オリンピックの開催が決まると、開催予定都市において各種の施設やインフラの整備、スポーツ振興等が図られます。これによって生活の利便性が高まるなど人々の暮らしにさまざまな影響が出ます。こうしたオリンピック開催を契機として社会に生み出される持続的な効果がオリンピック・レガシーです。  
IOCは、オリンピック・レガシーの分野としてスポーツ、社会、環境、都市、経済の5分野を挙げています（IOC "Olympic Legacy Booklet"）。

なお、レガシーの概念理解を深める際に重要な3つの軸があります。  
それは、①**ポジティブなもの**、②**ネガティブなもの**、③**有形のもの**、④**無形のもの**、⑤**あらかじめ計画したもの**、⑥**偶発的なもの**、の3つでありこれらの軸で構成される六面体は「レガシーキューブ」と言われています（Gratton & Preuss, 2008）。



出典：  
Gratton, C. & Preuss, H. (2008) Maximizing Olympic impacts by building up legacies. The International Journal of the History of Sport 25(16), 1922-1936. 東京大学大学院経済学系

スポーツの価値とは・・・  
勝負に勝つことにその価値があるのか？  
スポーツは成長したり、共感→感動をえられる、そして社会とつながる手段だったのでは？？

東京2020を、  
スポーツ少年団やリーダーの価値を再構築していく一つの契機と捉える。  
そのためには・・・

### スポーツの力でみんなが輝く社会へ

- 誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会に向けたレガシー  
・誰もが、身近な地域で、スポーツを「する・観る・支える」ことのできる環境を整えることにより、スポーツ参加人口が拡大します。  
・高齢化社会における種別への対応や、スポーツ参加人口の拡大により、「スポーツ」関連の産業分野が振興し、新たな雇用や価値を生み出すと共に、日本経済の発展にも寄与します。  
・自分の体力等に合った運動やスポーツを日常的に継続して実施する人が増えること（スポーツ実施率向上）により、健康な人が増加します。  
・世界各国・地域とのスポーツによる国際交流・協力が一層盛んになり、スポーツの価値とオリンピック・パラリンピック精神が国内外により広く普及します。
- アスリートが活躍する社会に向けたレガシー  
・大会に向けて、競技力向上はもとより、アスリートの健康にも配慮した競技環境の整備や、次代を担うアスリートの発掘・育成の環境も整い、アスリートの「総合力」が向上します。  
・アスリートが地域の指導者として、ジュニア層を育成し、さらに次の世代に循環していくアスリートサイクルが定着します。  
・競技を重んじたアスリートが、競技（スポーツ界）以外でも、社会の様々な場で幅広く活躍、国内外の人々に「スポーツの力」を発信するなど、良い影響力を発揮します。  
・競技団体をはじめとするスポーツ団体の活動が活発になり、ガバナンスや実行力が高まると共に、スポーツ・インテグリティ（スポーツの高潔性）保護の認識や取組が向上します。
- パラリンピックを契機とした共生社会に向けたレガシー  
・パラリンピックの競技種目をはじめ、障がい者スポーツに対する認知度が飛躍的に向上し、ファンや支え手となる人が増加します。  
・障がい者へのスポーツ実施のための場の確保や人材育成などが格段に進み、障がいのある人もない人も、身近な地域で日常的にスポーツに親しむことのできる環境整備が進展します。  
・パラリンピック大会の成功、障がい者スポーツの認知向上などを通じて、障がい者への理解が深まり、ハード面のバリアフリー化だけでなく、「心のバリアフリー」が浸透し、共生社会の礎を築きます。

# アクションの例

- 子供の運動習慣向上のため、放課後子供教室や幼稚園での運動遊びプログラムの実施及び指導体制の拡充
- 部活動、総合型地域スポーツクラブへのトレーナー、健康運動指導士、理学療法士の配置による子ども・学生の運動器管理
- 親子でスポーツを楽しむ「親子スポーツ教室」（仮称）や子供たちがスポーツを支える仕事に親しむ「スポーツ版キッズニア」（仮称）などを各地域のイベント等と連携して全国で開催
- スポーツ（運動）習慣の定着・関心喚起に向けて、スポーツ以外のアミューズメント（音楽、アニメ、食文化、伝統芸能、観光等）と連携したイベントや事業を広く実施
- 例）大会と自分のつながりを楽しみながら続けられる参加型イベント「リオから東京まで歩いて（走って）いこうプロジェクト」（仮称）等の推進
- 「Sport for Tomorrow」等、多様な主体による、スポーツを通じた国際貢献の取組を推進
- アウトリーチ型（主催者が外向いて行く）の参加者募集によるスポーツ未実施者のスポーツ・レクリエーション活動への参加促進と継続

## 東京2020大会 アクション&レガシープラン

カテゴリ	項目	JOC	関係機関等	実施スケジュール
1. 競技大会	【大会】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
2. 大会期間中	【大会期間中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
3. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
4. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
5. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
6. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
7. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
8. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
9. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
10. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
11. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
12. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
13. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
14. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
15. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
16. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
17. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
18. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
19. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
20. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
21. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
22. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
23. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
24. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
25. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
26. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
27. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
28. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
29. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
30. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
31. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
32. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
33. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
34. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
35. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
36. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
37. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
38. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
39. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
40. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
41. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
42. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
43. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
44. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
45. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
46. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
47. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
48. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
49. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
50. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
51. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
52. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
53. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
54. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
55. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
56. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
57. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
58. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
59. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
60. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
61. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
62. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
63. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
64. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
65. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
66. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
67. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
68. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
69. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
70. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
71. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
72. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
73. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
74. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
75. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
76. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
77. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
78. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
79. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
80. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
81. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
82. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
83. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
84. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
85. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
86. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
87. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
88. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
89. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
90. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
91. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
92. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
93. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
94. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
95. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
96. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
97. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～
98. 大会中	【大会中】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月24日～8月9日
99. 大会後	【大会後】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年8月10日～
100. 大会前	【大会前】	東京2020大会	東京オリンピック委員会	2020年7月1日～

<https://tokyo2020.org/jp/games/legacy/items/legacy-compile2017.pdf>  
<https://tokyo2020.org/jp/games/legacy/items/legacy-report-lis2017.pdf>

東京都スポーツ少年団リーダー会  
**リーダーアクション**  
 ～「東京2020」にむけての取り組み～



東京都スポーツ少年団  
 指導者協議会運営委員  
 リーダー育成部会 細野芽生

2013年9月8日  
 オリンピック・パラリンピック開催決定イベント



「東京2020」にむけての取り組み

～2013年9月8日 2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催決定～

- 2014年 関東ブロックスポーツ少年団大会 ～TOKYO MOVE～
- 2015年 関東ブロック競技別交流大会(交流会・グッドマナー賞) ～5つの「わ」～
- 2016年 オリンピック・パラリンピック研修 ～私たちができることを考えよう!～
- 2017年 **ジュニアリーダースクール** ～オリンピックとスポーツ少年団 未来へ...～
- 2018年 全国剣道交流大会にて(交流会) ～5つの「わ」～



東京都ジュニアリーダースクール2017概要

- 期間 8月21日～23日 2泊3日
- テーマ 『発見・発掘』～新たな自分・東京・仲間～
- 場所 BumB 東京スポーツ文化館 (新木場)
- 参加者 団員：15名 運営リーダー：4～6名  
指導者：3～4名 事務局：1～2名
- 運営 プログラムの企画から運営までリーダーが主体  
当日も講義以外はリーダーが進行
- その他 キャンプファイヤー等の野外活動ができる施設はほとんどない!  
都心部に近いため、日中の屋外での活動はとにかく暑い!



年編79年歳ウニョーダースクールの日程

8月21日(日)	8月22日(月)	8月23日(火)
8:00-8:30		集合準備
8:30-9:00	別活動	別活動
9:00-9:30		オリエンテーリング(講義・中間発表)
9:30-10:00		発表
10:00-10:30		発表
10:30-11:00	講話(おもしろいオリエンテーリング(考えてみる))	マルサス大田区校
11:00-11:30	講話(講話)	講話
11:30-12:00	講話(講話)	講話
12:00-12:30	昼食	ランチ
12:30-13:00		
13:00-13:30	講話(講話)	マルサス大田区校
13:30-14:00	講話(講話)	講話
14:00-14:30		
14:30-15:00	講話(講話)	マルサス大田区校
15:00-15:30	講話(講話)	講話
15:30-16:00		
16:00-16:30	講話(講話)	マルサス大田区校
16:30-17:00	講話(講話)	講話
17:00-17:30		
17:30-18:00	講話(講話)	講話
18:00-18:30	講話(講話)	講話
18:30-19:00	講話(講話)	講話
19:00-19:30	講話(講話)	講話
19:30-20:00	講話(講話)	講話
20:00-20:30	講話(講話)	講話
20:30-21:00	講話(講話)	講話

オリエンテーリング

内容  
 班ごとにポイントをまわり、そこで出題されるオリンピック・パラリンピックやスポ少等にちなんだ問題に協力して答え、正解するとキーワードの書かれた国旗カードがもらえる。  
 キーワードを並べ替えてヒミツの文章を早く完成させたチームの勝ち!

活動のねらい

- 3日間で行う活動の導入
- ⇒「スポーツ少年団」への興味関心を高める
- ⇒「オリンピック・パラリンピック」への興味関心を高める
- ⇒「旗幟」への興味関心を高める
- ・班で協力してポイントをまわることで、班員同士のチームワークを深める







## ワークショップの様子



参加団員たちからの発表後は  
一緒にスポーツレクリエーションを体験していただきました！



## メインのプログラム以外のしかけ

～班旗の作成～



五輪の5色に白を加えた6色で作成

～サインラリー～



1人1国ずつ国旗のシールが配られ、  
サインをするときに貼る。ちゃっかり  
オリンピックのサインもゲット！

## 取り組みの成果と課題

### 成果（変わってきたこと）

- ・リーダー活動やリーダースクールに興味を持ってくれる指導者が増えた  
⇒活動の場の提供（運営補助の以来等）
- ・リーダーたちが新しいことに挑戦するようになった（できるようになった）  
⇒リーダー研修として福岡県への遠征が実現
- ・新しい地域からリーダー会に入会があった

### 課題

- ・学校教育でも「オリンピック・パラリンピック」について学んでいるため、  
身近すぎる  
⇒「スポ少」としてのかかわりで違う視点からも興味を持ってもらう工夫
- ・新たな取り組みが負担にならないように！  
⇒なるべく今ある活動の中に取り入れることで負担を減らす



### 徳島県スポーツ少年団リーダー会 リーダーアクションinとくしま ACPで小学生に運動遊びを伝える



2018年6月17日(日)  
徳島県スポーツ少年団リーダー会  
会長 新居 千夏

#### リーダーアクションinとくしま

スポーツ実践  
ACP活動



支える

- 2016. 9 全国リーダー連絡会議 ACP指導法を学ぶ
- 2016.10 徳島県リーダー会で連絡会報告で計画を検討
- 2016.11 四国ブロックリーダー研究大会  
愛媛リーダー会から小学校PTA研修でACPを実施した報告
- 2016.12 徳島リーダー会から石井町教育委員会教育長へ打診
- 2017. 2 石井町立石井小学校の正規の土曜授業  
今回のリーダーアクションの報告
- 2017. 9 全国リーダー連絡会でこの事業を報告
- 2017.11 石井町立高原小学校の正規の土曜授業でACP指導
- 2017.12 石井町立石井小学校 6年にリーダー活動プレゼン  
1年にはACP指導
- 2018. 6 ジュニアスポーツフォーラムでこの事業を報告

### 石井小学校でACP実施までの経緯

1. 第4回リーダー会定例会で全国リーダー連絡会議の報告がありました。
2. ACPを実践普及するためにリーダーは何ができるかを話し合いました。
3. 小学校でやらせてもらえたら一番良いと思うと云う意見が最も多かった。
4. 平成28年度四国ブロックリーダー研究大会で愛媛県の事例発表がありました。
5. 愛媛県で出来たのなら徳島でも絶対やりたいとリーダーが思いました。
6. リーダー育成担当の指導者に相談して、ダメ元で取り組むことになりました。
7. 石井町教育委員会教育長さんに趣旨の説明をする時間をつくってもらいました。
8. 教育長さんが小学校校長先生に口添えて下さいました。
9. 石井小学校、校長先生に趣旨を理解してもらってやってみましょう となりました。
10. リーダー会でプログラムや方法を検討しながら準備をしました。
11. リーダーが在籍している中学校の校長先生に指導者が活動の説明に行き活動当日のリーダーを公欠扱いしてもらえることになりました。

### ACPを小学校の 授業で実施しました

1. ACPを実施した日 平成29年2月4日(土曜日)
2. 実施した場所 石井町立石井小学校体育館
3. 実施した時間 9時35分～10時20分 (45分間)  
小学校の第2時限目授業として実施しました
4. 活動した児童 石井小学校1年生 3クラス94名
5. 指導した人 徳島県リーダー会会員 13名  
ジュニアリーダー認定の小学生 2名がアシスタントとして参加
6. 少年団指導者 認定育成員および認定員 4名
7. 学校関係 校長先生および担任教師 4名

### 実施状況の報告

正規の授業のため時間には注意をして進行しました



### 実施状況の報告

正規の授業のため時間には注意をして進行しました



## 実施状況の報告

### 6. からだを使ってジャンケン列車



## 実施状況の報告

### 7. 新聞紙のボールで陣取り合戦

- ・新聞紙をまず自分で丸めてボールを1個作りました。
- ・ボールは事前に100個作成していました。
- ・一人が2個のボールを持って相手チームの障地に何個入れられるか。
- ・各チームが二試合しました。



## 実施状況の報告

### 8. 大根抜きをしました。



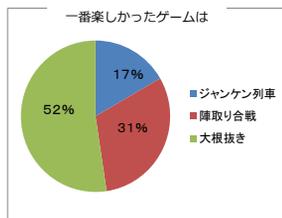
## ハイタッチで さようなら をしました



## ACPを体験して 小学生はこう思いました

ジャンケン列車	陣取り合戦	大根抜き
14	26	44

84人/94人  
無回答 10人



## 小学生の感想は

全員がとても楽しかったと書いてくれました。

- ・また、一緒にゲームをしたいです。
  - ・また、来てください。
  - ・いろいろな遊びを教えてくださいありがとうございます。
  - ・今度はボールを使うゲームを教えてください。
  - ・お兄さんもお姉さんもやさしくしてくれてうれしかった。
- 等々、本当に嬉しいことをいろいろと書いてくれました。

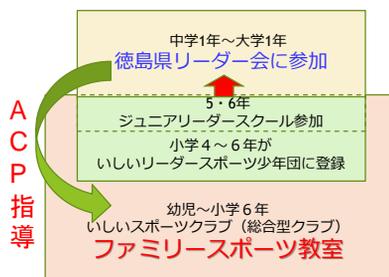
## 今回の活動で リーダー会が学んだこと

1. 自分たちの考えや思いを発言することの大切さ。
2. 難しいと思える事でもアタックする勇気が必要なこと。
3. 小学校低学年の児童と接する時には分かりやすい言葉で説明する必要があること。
4. 小学生には笑顔でハキハキと話すことが大切なこと。
5. ACPはとても楽しくて喜ばれるゲームだと再確認をしたこと。
6. 何よりもリーダーが力を合わせればいろんなことが出来るという自信になったことが良かったと思います。

## ACP活動の実践例

- 開催 平成29年2月4日(土)
- 場所 徳島県石井町立石井小学校
- 放送 石井ケーブルテレビ

徳島県リーダー会としいスポーツクラブ(総合型クラブ)との連携





最後になりますが  
今後は徳島県下の小学校や総  
合型クラブへ声をかけて、  
ACP活動を推進するリーダー  
活動を徳島県リーダー会の  
リーダーアクションとして広  
げていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました



平成 30 年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会報告書

編集

公益財団法人 日本スポーツ協会

日本スポーツ少年団

東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館内

電話: 03-3481-2222

FAX: 03-3481-2284